

Korea File 2017 NO.4 別冊「朝鮮の声」 (2017/7/25~10/26)

●朝鮮外務省スポークスマン：朝鮮中央通信記者の質問に回答 (7/25)

米CIA長官の最高首脳部排除示唆を非難

去る20日、CIAのポンペオ長官は民間団体が催した安全保障フォーラムなる場で、「北朝鮮の核問題で最も危険なのは核兵器の統制権限を掌握した人物の気質」であり、情報機関と国防総省が「核兵器とそれを使用する意図を持ち得る人物」を分離する方途を研究中であると述べ、無礼にもわれわれの「首脳部排除」をうんぬんした。

CIA長官の妄言は、われわれの核攻撃能力が日々強化されるのに業を煮やした者の寝言にすぎないが、その度合いを超えたし、今やトランプ政権の対朝鮮敵視政策の最終目標がわれわれの「政権交代」にあることが明白になった。

米国の対外情報を総括するという者がわが軍隊と人民を最高首脳部と切り離せると妄想するのは、われわれに対する無知蒙昧の表れであり、米国の情報分野の水準がどの程度であるのかを赤裸々に示す一件である。

米国の歴代政権がこれまでの朝米対決で失敗を繰り返さざるを得なかったのも、まさしくそのような愚かな米国の情報分野の「功労」であると言える。

わが軍隊と人民は、われわれの最高首脳部を抜きにして自分の運命について、未来について考えたこともない。

核戦力を中枢とするわが革命武力の第一の使命は領袖（りょうしゅう）決死擁護にある。

朝鮮は、国の最高の尊厳が脅かされる場合、それに直接、または間接的に加担した国と対象は核攻撃手段を含む全ての攻撃手段を動員して先制掃滅するよう法的に規定している。

われわれの最高首脳部をどうにかしようとする者は、どこに居ようと探し出して打ちのめすというのがわが軍隊と人民の絶対不変の意志である。

CIA長官の妄言を通じて、われわれはあらゆる難関と試練を乗り越えて核戦力完成の歴史的大業を成就したのがどれほど正当であるのかをあらためて痛感した。

米国があえてわれわれの最高首脳部をどうにかしようとするわずかな兆しでも見せるなら、われわれは打ち固めてきた強力な核の鉄ついで米国の心臓部を無慈悲に攻撃するであろう。

永遠のわれわれの太陽、わが民族の生の全てであるわれわれの最高首脳部にあえて突っ掛かった結果がどれほど破局的で悲惨なものであるのかについてポンペオのような者は骨身に染みるほど体験することになるであろう。

●労働新聞：日本の改正組織犯罪処罰法はファッショ悪法 (7/26)

オーストラリア外相の自衛的措置中傷を非難

日本で改悪された改正組織犯罪処罰法が去る11日から正式に施行された。

日本の執権勢力は、テロ組織と暴力団をはじめ組織的犯罪集団が拉致や薬物の密輸など重大な犯罪を計画して準備を行った場合、計画に関与した全員を処罰するためのものであるのだ、国民の安全を守る重要な事業であるなどと改正組織犯罪処罰法の施行を弁護している。

26日付の「労働新聞」は署名入りの論評で、改正組織犯罪処罰法は国内の進歩的な勢力を抑え付けて軍国化に有利な足場を得ようとする日本のファッショ狂の陰險な術策の産物であると明らかにした。

同紙は、言い換えれば、それは「テロ等準備罪」の美名の下に一般市民の自由を抑制し、監視を容認する危険なファッショ悪法であると指摘し、次のように強調した。

日本の人民が願うのは平和であって、戦争ではない。しかし、極悪なファッショ制度、日帝時代の亡霊をよみがえらせるのが日本の反動支配層の政治目的である。

彼らは、国内の進歩的な勢力とメディア、人民の口を封じて手足を縛ろうとしている。

改正組織犯罪処罰法によって歴史歪曲（わいきょく）を暴露する進歩的人士も全て弾圧できるところにファッショ悪法としてのこの法の危険性がある。

日本は戦争国家、ファッショ国家の姿をあからさまにした。

日本当局が真に国民の安全を思うなら、戦争国家でつち上げを狙ったファッショ化策動を直ちにやめなければならない。

●朝鮮外務省スポークスマン談話（7/30）

米の「超強度制裁」に断固たる行動で応える

去る28日に行われた大陸間弾道ミサイル（ICBM）「火星14」型の2回目の試射の大成功は、チュチェの核強国、世界的なミサイル盟主国としてのわが共和国の自主的尊厳と威容をあらためて世界に誇示した壮快な勝利となる。

今回の試射を通じて、任意の地域と場所から任意の時刻にICBMを奇襲発射できる能力が誇示され、米本土全域がわれわれの射程圏内にあることがはっきりと立証された。

われわれが今回、あえてICBMの最大射程模擬試射を行ったのは、最近分別を失ってわが共和国に反対する制裁・圧力騒動に狂奔し、つまらないラッパを吹いている米国に嚴重な警告を送るためである。

われわれの成功裏のICBMの2回目の試射を注視したであろう米国の政策立案者は、わが国家にあえて手出した日には米国という侵略国家も無事ではないであろうことを十分理解したであろう。

わが国家を相手にした米国の生意気な戦争のラッパや極端な制裁の威嚇は、われわれをさらに覚醒、発奮させ、核兵器保有の名分だけを与えている。

米帝のけだものによってこの地で残酷な戦乱を経たわが人民にとって、国家防衛のための強力な戦争抑止力は必須不可欠の戦略的選択であり、何によっても変わらないし、何物にも代え難い貴重な戦略資産である。

半世紀をはるかに越える長久な年月、血なまぐさい侵略戦争と極悪非道な敵視策動でわが人民に不幸と苦痛を強いてきた米国が、われわれの再三の警告にもかかわらず、この地に再びおぞましい顔をさらして核のこん棒を振り回し、間の抜けたいたづらをするなら、われわれがこれまで順々に見せた戦略核兵器で厳しくしつけるであろう。

米国は世界的な核強国、ミサイル強国としてそびえ立ったわが共和国の戦略的地位とわが軍隊と人民の敵撃滅の報復意志を直視し、われわれを討とうとする愚かな妄想をやめなければならない。

もし、米国がいまだに目を覚ませず、われわれに反対する軍事的冒険と「超強度制裁」策動にしがみついたら、われわれは既に宣明した通り断固たる正義の行動で応えるであろう。

●朝鮮外務省スポークスマン：朝鮮中央通信記者の質問に回答（8/3）

ICBM試射は米国の軍事的威嚇・恐喝の警告

最近、米国はわれわれの成功裏の大陸間弾道ミサイル（ICBM）「火星14」型の2回目の試射に対する軍事的対応をうんぬんし、先端戦略資産を朝鮮半島に大々的に投入して軍事的冒険にしがみつこうとしている。

米国は、南朝鮮がいらいと共にわれわれを狙ったミサイル発射訓練を行ったのに続き、2機の戦略爆撃機B1Bを朝鮮半島の上空に10時間飛ばして爆撃訓練を行ったし、われわれの弾道ミサイルを想定したミサイル迎撃実験を行う一方、高高度防衛ミサイル（THAAD）発射台の追加配備をついに決定した。

また、米統合参謀本部議長と米太平洋軍司令官が南朝鮮がいらいといわゆる「軍事的対応方案」を協議したのに続き、朝鮮半島の周辺に先端戦略資産を集中配備すると公然と騒いでわれわれに対する軍事攻撃の企図を露骨に表している。

われわれが「火星14」型の2回目の試射を断行したのは、分別を失ってつまらないラッパを吹き、われわれに対するいわゆる軍事的圧力と極端な制裁の威嚇を騒いでいる米国に重大な警告を送るためである。

米国が依然として軍事的血気にはやるのを見ると、いまだに自分の相手が米国という侵略国家をこてんぱんにできる強力な核強国であることを悟っていないようである。

米国のいかなる軍事的威嚇や恐喝はわれわれを絶対に驚かせられないし、むしろ、わが軍隊と人民の敵撃滅の意志だけを固めさせている。

米国がわれわれの再三の警告にもかかわらず、この地におぞましい顔をさらして核のこん棒を引き続き振り回し、間抜けなはずらをするなら、われわれがこれまで見せた戦略核兵器の味をたっぷり味わうことになるであろう。

●朝鮮外務省スポークスマン談話：米国の制裁法はわれわれに通じない（8/3）

去る2日、トランプ米大統領が議会を通過した「制裁を通じた米国の敵性国に対する対応法案」に署名した。

これにより、わが国とロシア、イランに対する米国の追加制裁が正式に法として採択された。

米国の反朝鮮制裁法でっちはげは、われわれの多発的で連発的な核戦力高度化措置に仰天した者の断末魔のあがきにすぎない。

何かにつけて主権国家に対する制裁法をでっちはげ、制裁のこん棒を振り回す米国の策動は、国際法的にも到底容認できないごろつき行為である。

今回、米国がまたしても主権国家に対する単独制裁法をでっちはげたのは、国連憲章と国際法に真っ向から挑戦して自分らの国内法を国際関係に適用しようとする犯罪的な行為となる。

従って、われわれは米国のいわゆる「単独制裁」を強く糾弾、排撃し、世界の全ての国もやはり、米国の不法、無法の強盗行為について熟考すべきであろう。

半世紀以上にわたる過酷な制裁の中でもわれわれが原爆、水爆と共に大陸間弾道ミサイル（ICBM）まで造った現実、その秘訣（ひけつ）を米国の法作成者がいまだに悟れず無分別に狂奔するのを見ると哀れ極まりない。

米国の制裁騒動が他国には通じるかもしれないが、われわれには絶対に通じない。

千里慧眼（けいがん）の英知と非凡な指導力、無比の度胸と胆力を備えた敬愛する最高指導者金正恩同志がわが革命の陣頭に立っており、金正恩同志の周りに固く結集した千万軍民の一心団結、偉大な自強力（自分で自分を強くする力）があるので、わが共和国は勝利に勝利だけを重ねている。

米国の制裁策動は、指導者の周りに固く結集したわが軍隊と人民の不屈の精神力と自力、自強の限りない力を倍加し、われわれの国防力がさらに強化される結果だけをもたらした。

われわれが最近行ったICBM「火星14」型の2回目の試射は、われわれとの全面対決で敗北ばかりを重ねて無分別に狂奔する米国に送る厳重な警告である。

わが国家を相手にした米国の生意気な戦争のラッパや極端な制裁の威嚇は、われわれをさらに覚醒、発奮させ、核兵器保有の名分ばかりを与えている。

著しく高まったわが共和国の総合的国力と戦略的地位を制裁騒動で崩そうとする米国の政治家の時代錯誤な妄想は、米国内でも嘲笑を買っている。

米国の対朝鮮制裁策動を糾弾する代わりに、われわれの核戦力高度化措置の名分をさらに与える米国の制裁騒動に同調する国々は結局、朝鮮半島情勢の激化をあおる国であると言えない。

米国は、勝算のない対朝鮮制裁劇に力を費やすよりも、米本土の安全を保証する方が果たして何であるかを熟考すべきであろう。

●朝鮮政府声明（8/7）

米国の核による威嚇が続く限り、核戦力強化の道から一寸たりともしりぞかない

6日、米国はわれわれの大陸間弾道ロケットの試射に「国際平和と安全に対する威嚇」と言い掛かりをつけながら、それを口実にわが共和国の経済発展と人民の生活向上を完全に阻むことを狙った国連安保理の「制裁決議」第2371号なるものをつくり上げた。

今回の国連「制裁決議」は徹頭徹尾、米国の極悪非道な孤立・圧殺策動の所産として、われわれの自主権に対する乱暴な侵害であり、わが共和国に対する正面からの挑戦である。

われわれが最強の核戦力を保有したのは、半世紀以上にわたって極端な対朝鮮敵視政策と核による脅威と恐喝をしてきた米国の強権と専横から、国の自主権と民族の生存権を守るために選択した正々堂々たる自衛的措置である。

われわれの相次ぐ大陸間弾道ロケットの試射は、太平洋の向こうに居座ってわれわれに対する無謀な軍事的冒険と卑劣な制裁策動を弄している米国に送る厳重な警告であった。

しかし、米国はわれわれの実体を認めてわれわれと共存する道に進む代わりに、よりいっそうヒステリックに振る舞いながらわれわれを狙ったミサイル訓練に狂奔し、数多くの戦略装備を引き込んで朝鮮半島情勢をまたもや核戦争の瀬戸際へ追い込もうとしている。

このような中で、米国は国連安保理を盗用し、通常の貿易活動と経済交流まで全面遮断する前代未聞の悪らつな「制裁決議」をつくり上げることによって、われわれの思想と体制、わが人民を抹殺しようとする凶悪な下心を全世界にさらけ出した。

一方で、わが国を狙ったいわゆる軍事的選択を考慮しているという、せん越な妄言を吐きながら、口角泡を飛ばして奔走している。

米国の笑止千万な威嚇が通じる国が別があり、米国の虚勢に完全に屈する国が別にある。

「世界唯一超大国」と自称する米国とそれに劣らず大きいわれわれの周辺諸国が、わが国家のたった二度の大陸間弾道ロケット試射にこのように怖気づいて互いに吠え立てるさまはむしろ、わが共和国が持っている強大な力に対する自負だけを高め、われわれが生きる道、われわれが行く道はただこの道だけだという信念を固くしている。

米国主導の下に過去の数十年間、数十回にわたってつくり上げられた国連「制裁決議」によって世界で最も過酷な制裁を受けている中でも、厳しい闘争を繰り広げて得るべきものを全て得、手に握るべきものを全て握ったわが共和国が、敵対勢力の新たな制裁で揺れ、態度を変えたと考えるのは途方もない妄想にすぎない。

米国がわれわれに政治、経済、軍事の各分野で全面的な挑発を仕掛けてきた以上、それに断固たる報復で対処するのはわが軍隊と人民の揺るぎない意志であり、確固たる決心である。朝鮮民主主義人民共和国政府は、米国と敵対勢力のヒステリックな策動によって醸成された重大な事態に対処して、次のように厳かに闡明する。

第一に、米国と敵対勢力がつくり上げた国連安保理の反共和国「制裁決議」をわが共和国の自主権に対する乱暴な侵害としてしゅん烈に断罪、糾弾し、全面排撃する。

世界最大の核保有国である米国が強行している極端な対朝鮮敵視政策と核威嚇・恐喝を阻止するための自衛的核抑止力を強化していくことが「国際平和と安全に対する脅威」になると言うのは、地球上の全ての国が米国の利益に服従する植民地になるか、でなければ侵略のいけにえにならなければならないという白昼強盗さながらの論理である。

世界で核実験を最も多く行い、時を構わず大陸間弾道ミサイル（ICBM）を発射して核の覇権を永遠に維持しようとする野望を露骨に追求している国々が、われわれの自衛的核戦力強化を犯罪視する不法な「決議」をつくり上げ、それに「違反」したという口実で制裁を加えることこそ、強盗さながらの二重基準の極致である。

われわれは、米国の反共和国策動と核威嚇が続く限り、誰が何と言おうと自衛的核抑止力を協定のテーブルにのせず、すでに選択した国家核戦力強化の道から一寸たりとも退かないであろう。

第二に、米国がわれわれの自主権と生存権、発展権を抹殺する国連安保理「制裁決議」を作り上げた以上、われわれはすでに闡明した通り断固たる正義の行動へ移るであろう。

米国がわが国家の戦略的地位を正視し、われわれの重なる警告に耳を傾ける代わりに、時代錯誤の対朝鮮制裁・圧迫騒動に執着しているのは自滅を早める愚かな行為である。

われわれは、白昼強盗の米国がわれわれに最も悪らつで卑劣な挑発を続けてくることに対処して、侵略と戦争の禍根を根こそぎ取り除くための正義の力を一層磐石に打ち固め、この道でけりをつけるであろう。

第三に、わが国家と人民を相手にして犯している米国の極悪な犯罪の代価を百倍、千倍に決算するだろう。

残酷な戦争でわれわれの領土を血の海、火の海の中に沈め、われわれの思想と体制を無くそうと世紀をまたぎ手段と方法を選ばずに狂奔している米国が、自国の領土が太平洋の向こう側にあるので無事だと考えているなら、それよりも大きな誤算はない。

今回、米国と裏部屋で密談し、悪らつな反共和国「制裁決議」をつくり上げることに共謀した代価として、米国の「感謝」を受けた国々も、朝鮮半島情勢をさらに激化させ、地域の平和と安全を危うくした責任から絶対に逃れられない。

もし、米国がわれわれを圧殺しようとする無謀な試みを中止せず軽挙妄動するなら、われわれはいかなる最後の手段もためらわないだろう。

われわれは今後も、平和守護の永遠の旗印である並進路線をさらに高く掲げ、われわれが選択した道を遠回りせず、最後まで進むだろう。

●朝鮮アジア太平洋平和委員会スポークスマン声明

「制裁決議」に物理的行使を伴う戦略的措置を取る（8/8）

世界で最もずうずうしいごろつき国家である米国とその強権に抑え付けられて不正義に盲従する有象無象が6日、国連安全保障理事会の名を盗用してまたもや対朝鮮「制裁決議」第2371号をでっち上げる国際的犯罪を働いた。

国連安保理で今回の「制裁決議」がでっち上げられるや、トランプ米大統領は非常に大きな経済的衝撃があるであろうとの、決議の採択に協力した中国とロシアに感謝を表明するだの何のと大事でも成したかのように振る舞い、米国国連大使をはじめとする手下は口々に「北朝鮮政権は持続的な核・ミサイル開発の代価を払うことになるであろう」と生意気なことを言い散らしている。

日本の安倍首相もまた、いち早く口を開いて今回の「制裁決議」を高く評価するだの、対朝鮮圧力を一段引き上げる必要があるという国際社会の意思を明確に表したものだなどと言いつらしている。

米国の制裁脅威におじけづいて手を挙げた分相応に振る舞えない国々は、後ろめたいのか、制裁は必要であるが究極の目的は協議による問題解決であると苦しく弁明している。

あろうことか、傀儡までぞろぞろ出てきて口を開き、われわれに国際社会が送る団結した警告を深刻に受け止めて国際平和と安全を脅かす無謀な挑発を即刻中断せよと差し出がましく振る舞っている。

しかし、米国とその追従勢力がでっち上げた今回の「制裁決議」は、チュチェの核強国、世界的な軍事強国の戦略的地位に至ったわが共和国の姿に仰天した米国の恐怖と不安の産物であり、「国際社会」という名で繕った敵対勢力の断末魔のあがき、歯抜けの老いたオオカミである米国が怖くて不正義であることを知りながらも手を挙げた無定見な有象無象の軟弱さと卑屈さによって国連の額に大きく押された恥辱の烙印（らくいん）である。

ア太委は、地域と世界の平和と安全を願うわが軍隊と人民の確固たる信念と込み上げる報復の意志を込めて次のような立場を明らかにする。

1. 強盗の米帝が主導し、それに盲従した卑劣漢が結託してでっち上げた今回の「制裁決議」を尊厳あるわが共和国に反対する極悪非道な特大型のテロ犯罪であると断じ、全面的に断固排撃する。

国連憲章と国際法典のどのページにも、自分の尊厳と自主権を守るための一国の自衛的な軍事力強化措置を問題視することができると規制した条項は影も形もない。

さらに、今回の「制裁決議」もやはり、これまで国連がでっち上げた全ての対朝鮮「決議」と同様、わが人民の不倶戴天（ふぐたいてん）の敵である強盗の米国が主導してでっち上げた犯罪的文書であり、特に国連安保理が既に世界の平和と安全を保障する機関としての本来の使命と任務に反したまま極端な偏見と不正義に染まった悪魔の道具、米国をはじめとする諸大国に踊らされる操り人形として盗用されて通過させた不法、無法の文書であり、われわれはそれを紙くずほどにも見なさず、これを履行せよと吹くつまらないラッパを月夜に響く犬の遠ぼえほどにも見なさないであろう。

罪悪の塊にすぎないこのような「制裁決議」が誰それに大きな「衝撃」を与え、何か結果をもたらすと期待するなら、それよりも愚かな妄想はないであろう。

2. われわれの自主権と生存権、発展権を無残に踏みにじろうと襲い掛かる強盗の行為がピークに達している状況で、それを守るわが軍隊と人民の実際の正義の行動が伴うであろう。

時代は変わり、世界は覚醒しつつある。

世界政治の構図は覚醒した人民の志向によって根本的に変わっている。

われわれの総合的な国力と戦略的地位も著しく高い域に至った。

このような時に、一国の自主権と生存権、発展権を丸ごと奪い、一民族の命脈を完全に絶とうと襲い掛かるオオカミの群れを傍観してははいられないわが軍隊と人民である。

著しく強化された総合的なわれわれの国力を総動員して物理的行使を伴う戦略的な措置がすさまじく取られることを絶対に忘れてはならない。

3. この機会に、世界の良心に国連の名を盗用した米国とその追従勢力の強権と専横を粉砕し、義に徹した安定した新しい世界秩序を樹立するために全ての国、全ての人民が立ち上がることを呼び掛ける。

大国の主張であるからといって正しいのではなく、多数であるからといって正義になるのではない。

中世に地球が自転しているという地動説を主張したのは数人であったし、それに反対し、犯罪視したのは多数であったが、結局、真理は歴史とともに勝利で実証された。

今回、信条も、良心も、信義も全て捨てて米国に追従して不法、無法の「決議」に手を挙げてトランプの感謝まで受け、主人のお目にかなった国々は世界の良心の前で恥を知るべきであり、歴史と人類の厳正な審判の場で、犯した罪を深く反省して相応の代価を払わなければならない。

戦争に反対し、平和を愛する世界の全ての国と人民は、不正義が横行して正義を審判し、専横と独善が横行して真実を罵倒する不公正な現在の国際秩序を正し、義に徹した平和な新しい世界を建設する反帝・反米闘争に勇敢に立ち上がるべきであろう。

米国と敵対勢力がわが共和国を圧殺しようと気炎を吐くこの時刻、われわれは自分が選択した核戦力強化の道がいかにかに正当であるのかを心から痛感し、並進の道で1秒も止まることなく、1ミリも遠回りせず真つすぐ前へ疾走する鉄の意志をあらためて全世界に宣言する。

わが軍隊と人民は、正義の力で強盗の米帝がでっち上げた不法、無法の「制裁決議」を断固打ちのめすであろう。

●朝鮮人民軍戦略軍スポークスマン声明（8/8）：グアム包囲射撃を慎重に検討

朝鮮人民軍戦略軍は、最近、米国がわが共和国を標的にして本土のカリフォルニア州のバンデンバーグ空軍基地で今年4回目となる大陸間弾道ミサイル（ICBM）ミニットマン3の試射を行い、太平洋上のグアム島のアンダーセン空軍基地から戦略爆撃機編隊を駆り出し

てわれわれの戦略的対象物を狙った実戦核攻撃訓練を公然と強行したし、各種の戦略核兵器をわれわれの鼻先に投入して地域情勢を極度に激化させていることを特別に注目している。

米国のこのような軍事行動はどれも、朝鮮半島に生じた極度に緊迫した緊張状況で危険な衝突を誘発しかねない火種になる。

特に、グアム島から出撃した戦略爆撃機が頻繁に南朝鮮の上空に飛来してわれわれの戦略的拠点攻撃のための実戦演習と威力示威劇を露骨に演じている重大な事態は、われわれに米国の対朝鮮侵略の前哨基地、発進基地であるグアム島を鋭意注視させ、制圧、けん制のための有意義な実際の行動を必ず取る必要性を感じさせている。

8日午前も、グアム島の空中匪賊（ひぞく）は南朝鮮の上空に飛来して狂気じみた実戦演習を行った。

わが革命武力の最高司令官である敬愛する金正恩同志は、アジア太平洋地域での米軍の軍事行動の性格を評価し、米国がわが国の周辺水域と太平洋が静かな日がなく暴れ、デリケートな地域で不適切な軍事的妄動に明け暮れているが、米帝の侵略装備を制圧、けん制するための強力で効果的な行動方を検討せよと指摘している。

朝鮮人民軍戦略軍は、時となく南朝鮮の上空に飛来してわれわれを刺激し、威嚇、恐喝している米帝の戦略爆撃機がたむろするアンダーセン空軍基地を含むグアム島の主要軍事基地を制圧、けん制し、米国に嚴重な警告の信号を送るために中長距離戦略弾道ミサイル「火星12」型でグアム島周辺に対する包囲射撃を断行するための作戦方を慎重に検討している。

このグアム島包囲射撃方は十分に検討、作成されて近く、最高司令部に報告することになり、わが共和国の核戦力の総司令官である金正恩同志が決断を下せば、任意の時刻に同時多発的に、連発的に実行されるであろう。

この射撃計画が断行される場合、米国がわれわれの戦略兵器の威力を最も近くで真っ先に体験する契機になるであろう。

米国にあらためて明白に強調するが、わが共和国が全てを冒して血と汗で造り上げた戦略兵器は、決して誰かの認定を受け、何かと交換するための取引の対象ではなく、まさに現在のような米国の政治的・経済的圧力と軍事的威嚇に断固対応するための実質的な軍事的手段であるということである。

米国が称する「予防戦争」という選択権が果たして、米国にだけあるのか。

米国が自国の地を誰の攻撃も受けない天国と考えるなら、それは明白に荒唐無稽な妄想である。

米国は、朝鮮人民軍戦略軍の弾道ミサイルが今この時刻も太平洋に向けて恒常的な発射待機態勢にあるという事実をはっきり認識し、われわれの弾道ミサイルの射角に深い注意を払わなければならない。

米国は正しい選択で、明日になって今日を後悔してはならない。

われわれがこのようなやむを得ない軍事的選択をしないようわが国家に対する無分別な軍事的挑発行為を直ちにやめなければならない。

●朝鮮人民軍総参謀部スポークスマン声明（8/9）

米国の全ての軍事的挑発を断固粉碎する

国連がわが共和国に対する極悪非道な「制裁決議」をでっち上げたのと時を同じくして、米国の好戦勢力が分別を失ってヒステリックな戦争狂気まで振りまいている。

米国では、トランプ大統領が「北朝鮮による核弾頭が搭載可能な長距離弾道ミサイルの開発を容認するくらいなら、同国を破壊するための戦争も辞さない」「戦争が起きるなら向こうでやる。大勢が死ぬが、米国ではなく向こう側で死ぬ」という狂った暴言をはばかりなく並べている。

国連の舞台では、ヘイリー米大使が「米国には強大な力がある」「それを含む全ての軍事的選択権を行使する」と世界の面前で公然と言い散らしている。

その上、マクマスター米大統領補佐官（国家安全保障担当）は「北朝鮮が米国の脅威になるような核兵器を保有すれば、大統領の見解としては我慢できないことである。従って、北朝鮮の核攻撃能力を除去するための新たな予防戦争を含む全ての軍事的選択案を用意している」と言い散らしている。

これに、マティス米国防長官とダンフォード米統合参謀本部議長、トーマス米特殊作戦軍司令官をはじめペンタゴン（国防総省）の軍部好戦狂も代わる代わる相づちを打ち、「斬首作戦」と「対北先制攻撃」、「秘密作戦」と「内部かく乱作戦」「特殊作戦」の必要性をためらわずに力説している。

これと時を同じくして、米帝侵略軍の唯一の空中投下師団である陸軍第82空挺師団は朝鮮戦線投入を予見して大規模な実戦空中強襲および機動展開訓練に進入し、陸軍第25軽歩兵師団と陸軍第10山岳師団が朝鮮半島の地形に熟練するための山地訓練に熱を上げている。

世界の至る所で悪名をはせたネイビーシールズなどテロ専門の特殊部隊が南朝鮮に緊急投入され、B52、B1B、B2Aをはじめ米帝侵略軍の戦略資産とステルス戦闘機F22編隊を南朝鮮に投入するための計画も本格的に推し進められている。

米本土カリフォルニア州のエドワーズ空軍基地では、戦略爆撃機B52H編隊が「PDU-5B」心理戦用ビラ爆弾投下訓練を行い、わが軍の縦深で内部混乱を造り出すための「秘密作戦」の準備に余念がない。

海上では、米帝侵略軍の空母打撃群2個と原子力潜水艦をはじめ、多くの海賊集団を朝鮮半島水域に機動展開させる計画である。

地上、海上、空中で行われているこれら全ての軍事的蠢動（しゅんどう）は、トランプをはじめ米当局者の北侵核戦争ヒステリーが危険ラインを越えて極めて無謀で無分別な実戦行動段階に至っていることをそのまま示している。

生じた重大な事態に対処して朝鮮人民軍総参謀部は、米帝の戦争狂が準備している全ての形態の軍事的挑発をこれまで打ち固めてきた限りなく強大な白頭山革命強軍の軍事的威力で無慈悲に踏みつぶす断固たる立場を内外に宣明する。

1. いまだにつまらない未練を持ってあえてわが革命の最高首脳部を狙った「斬首作戦」を画策している米国の挑発に対しては、そのわずかな動きでも捕捉次第、卑劣な陰謀集団を打ちのめすわれわれ式の先制的な報復作戦が開始されるであろう。

米国が追求する「斬首作戦」は、わが革命の首脳部が位置する首都平壤を「席卷」し、核と戦略ミサイルの使用を許さないために以前から計画された極めて無礼で悪辣（あくらつ）な首脳部「排除」作戦である。

われわれは、米国がいったん無謀な陰謀の実現のためにぴくりとでもすれば、天人共に怒れる作戦を考案してそれに加担した全ての犯罪者を一撃で跡形もなく一掃するわれわれ式の先制的な正義の報復作戦に進入するであろう。

特別に訓練され、準備された特攻隊の群れであっても、わが革命の首脳部に接近する前にわれわれの主権が行使される海上と水中、空中の封鎖線の外で、地上の軍事境界線の手前で一人残らず掃滅されるであろう。

われわれには、「チーム」や小隊、中隊、大隊の規模ではない世界一流の特殊作戦軍が準備されている。

革命の首脳部死守を領袖（りょうしゅう）軍、党軍の最大の使命に、銃戦士の第一の座右の銘として心に刻み付けている朝鮮人民軍特殊作戦軍将兵の積もり積もった米国、敵に対する怒りが爆発する場合、「斬首作戦」で米国が受ける災難の惨状は想像もできないであろう。

世界は、一分一秒を万全を期して出動待機状態にあるわれわれの勇敢な特殊作戦軍集団がいったん動けば、「戦争も辞さない」と叫んであえてわれわれの最高の尊厳、最高首脳部を狙ったトランプと戦争の手先の運命がどう終わるのかをはっきり目撃することになるであろう。

2. 米国が新たに考案して行おうとする挑発的な「予防戦争」には、米本土を含む敵の全ての牙城を根こそぎにする正義の全面戦争で対応するようになるであろう。

トランプのいわゆる安保補佐陣が新たに考案して準備しているという「予防戦争」は、米本土を射程圏内に収めたわれわれの核およびミサイル基地を任意の時刻に不意に攻撃し、米国に対してあり得る危険をあらかじめ防ぐという極めて挑発的な侵略戦争概念である。

「予防戦争」の考案者も、自分らの行為が国際的物議を醸しかねない強盗さながらの軍事的選択であることを自ら認めている。

それでも、「予防戦争」の場をわれわれの主権が行使される共和国北半部地域に定め、そこで死ぬ人は朝鮮人である反面、自分らには被害がない「理想的な選択」かもしれないと言い散らしている。

現実がどう変化し、相手が誰なのか、大勢の流れがどう変わっているのか初歩的な感覚も、認識も、分別もない愚かで愚昧な妄想にほかならない。

戦争は決して遊びではない。

いったん米国の「予防戦争」行為の兆しが現れれば、わが軍隊はその即時、わが共和国の神聖な国土が戦場になる前に米本土をわれわれの核戦争の場にするのを忘れてはならない。

われわれに、既に米本土を射程に収めた多種多様な戦略的核攻撃手段が頼もしく準備されていることを隠さない。

3. 米国の軍部好戦狂が口癖のように言い散らしている「先制攻撃」企図は、われわれ式より先じた先制攻撃で無慈悲に粉砕するであろう。

先制攻撃はもはや米国の独占物ではない。

世紀をまたぐ侵略者米帝との命を懸けた決戦を準備してきたわれわれには、米国のいかなる軍事的先制攻撃も先に粉砕できるわれわれ式の独特な先制攻撃方式がある。

われわれの核およびミサイル基地に対する先制攻撃をうんぬんすること自体が笑止千万である。

われわれ式の先じた先制攻撃は、米国の無謀な先制攻撃企図があらわになる即時、ソウルを含むかいらい陸軍第1・第3野戦軍地域の全ての対象を火の海にし、南半部の全ての縦深に対する同時攻撃とともに太平洋作戦戦区の米帝侵略軍発進基地を制圧する全面的な攻撃につながるであろう。

われわれ式の先じた先制攻撃に参加する全ての攻撃手段も、任意の時刻に下す命令に従って正義の炎を激しく噴き出す待機状態にある。

4. われわれの内部に混乱をつくり出して体制崩壊を狙っている米国の「秘密作戦」は、全人民抗戦でこれ見よがしに踏みつぶすであろう。

最近、米国の政策作成者がうんぬんしている「秘密作戦」は、ごろつきで編成された特攻隊の群れをわれわれの内部に浸透させて殺人、放火、破壊のような騒動で混乱をつくり出し、心理戦と組み合わせるとわれわれの体制を崩壊させるという愚かな悪巧みである。

この悪巧みを実現しようと米本土では心理戦用大型ビラ爆弾投下訓練まで行っている。

「秘密作戦」は、米国がイラクとリビアをはじめ中近東地域とアフリカ、欧州の国々で適用した特殊作戦の一つの形態である。

米国がわが国で夢見ている「秘密作戦」は、300万の少年団員と500万の青年を含む全ての人民の反米抗戦でこれ見よがしに粉砕するであろう。

相手を知り、自分も知って行う戦争は百戦百勝するが、相手を知らず、自分も知らずに行う戦争は百戦百敗するという。

今、米国はわが軍隊と人民をあまりにも知らずに狂気を振りまいている。

わが共和国は、指導者の周りに千万軍民が一心で結集した不敗の思想強国、全人民が武装し、全国が要塞（ようさい）化された金城鉄壁の国である。

滅びる兆しが見え、運命が傾くだけ傾いた国が、自分らが住むアメリカ帝国であることを知らないところに米国の政策作成者の悲劇がある。

結局、米国は相手も知らず、自分も知らずに慌てふためくことで、悲惨な最期を免れなくなっている。

千万軍民が米国に対する燃える憎悪と敵愾（てきがい）心で胸をたぎらせ、鋭い銃剣を力強く握ったこの地にあえて汚らわしい悪巧みの実現のために潜り込む者は、生きて帰る考えをしてはならない。

透徹した領袖決死擁護精神、祖国守護精神でフル装填（そうてん）されたわが人民軍将兵と労農赤衛軍、赤い青年近衛隊の隊員が侵略者米帝の一挙一動を鋭く注視して決戦の時刻だけを待っている。

米国は、われわれに対する侵略戦争の企図が陰険になって露骨になるほど、わが軍隊の軍事的対応の強度もそれだけ強くなることを一瞬も忘れてはならない。

もし、米国がわが革命武力の峻厳（しゅんげん）な警告を無視してあくまで無分別な軍事的冒険に進むなら、アメリカ帝国の悲劇的終末はさらに速い速度で押し迫ることになるであろう。

●朝鮮人民軍戦略軍の金絡謙司令官（8/9）

グアムへのミサイル4発同時発射検討

既に宣明したように、わが朝鮮人民軍戦略軍はグアム島の主要軍事基地を制圧、けん制し、米国に重大な警告の信号を送るために中長距離戦略弾道ミサイル「火星12」型の4発の同時発射を行うグアム島包囲射撃方案を慎重に検討している。

昨日、戦略軍がスポークスマン声明を通じてわが共和国に対する全方位的な制裁と軍事的威嚇の水準を最大に高めている米国に聞き入れられるだけ十分な警告を行ったにもかかわらず、ゴルフ場に入り浸っていた米軍統帥権者は情勢の方向を全く推し量れないまま、「炎と怒り」だの何のの妄言をまたもや並べてわが火星砲兵の激高した神経をさらに鋭く刺激している。

われわれの声明をいまだに正しく翻訳できなかつたのか。

理性的な思考ができないもうろくした者とは正常な対話が通じないし、絶対的な力で治めなければならないというのがわが戦略軍将兵の判断である。

われわれが今回講じようとする軍事的行動措置は、朝鮮半島とその周辺地域での米国の狂態を制止させるのに効果的な処方になるであろう。

わが戦略軍火星砲兵は、米帝の侵略基地を狙った今回の包囲射撃を通じて朝鮮労働党の頼もしい核戦力、世界最強の攻撃軍種に強化され、発展した朝鮮人民軍戦略軍の恐るべき威力を再び全世界に余すところなく示威する燃える決意に満ちている。

戦略軍は、米帝の侵略基地を狙って実際の行動措置を講じることになる歴史的な今回のグアム島包囲射撃を人民に公開する方案も検討中にある。

このような特例的措置は、わが人民に必勝の信念と勇気をさらに与え、米帝の哀れな境遇をはっきりと認識させることに目的がある。

われわれが発射する「火星12」型は、日本の島根県、広島県、高知県の上空を通過することになり、射程3356.7キロを1065秒（17分45秒）間飛行した後、グアム島周辺30～40キロの海上水域に着弾することになるであろう。

朝鮮人民軍戦略軍は、8月中旬までにグアム島包囲射撃方案を最終的に完成させて朝鮮核戦力の総司令官に報告し、発射待機態勢で命令を待つであろう。

われわれは、米国の言動を引き続き注視している。

●朝鮮中央通信論評：米国・南朝鮮合同軍事演習は自滅促す（8/14）

去る11日、米国防総省は米国・南朝鮮合同軍事演習「ウルチ（乙支）フリーダムガーディアン」が計画通り21日に始まると公表した。

そこで米国は、原子力空母打撃群と原子力潜水艦をはじめとする戦争装備を朝鮮半島に繰り上げて出動させ、12機の戦闘機F16と多くの兵力を南朝鮮駐屯米軍基地に増派するなど、大々的な武力投入を騒いでいる。

先日は、米軍統帥権者と南朝鮮当局者が直接電話会談を行って合同軍事演習に関する謀議を凝らした。

極度に悪化した朝鮮半島情勢の下で大規模な核戦争演習の開始が何を意味するのかは明々白々である。

いくら「年次化」「定例化」「防御的性格」を論じて、戦争勃発の危険性を絶対に弱められない。

たとえ誰も願わなくても、ささいな偶発的事件で火の粉が散れば、どんな力でも戦争を防げない。

問題は、第二の朝鮮戦争が起きる場合、核戦争になるしかないということである。

朝鮮は既に、朝鮮政府声明を通じていかなる最終手段もためらわないし、辞さないであろうと宣明した。

米国は熟考しなければならない。

朝鮮人民軍戦略軍は、8月中旬までグアム島包囲射撃方案を最終完成させて朝鮮の核戦力の総司令官に報告し、発射待機態勢で命令を待つであろうと発表した。

われわれが発射する中長距離戦略弾道ミサイル「火星12」型の飛行軌道と射撃諸元、正確な弾着点まで内外に公表するほど朝鮮の核戦力は頼もしく、その威力は誰も予測できない。

朝鮮政府声明が発表された後の3日間だけでも、全国的におよそ350万人に及ぶ青年学生と勤労者が朝鮮人民軍の入隊、復隊を嘆願した事実は、反米対決戦を終わらせようとする朝鮮人民の意志をはっきりと示している。

米国がわれわれの再三の警告にもかかわらず、核を持った相手の前で核のこん棒を引き続き振り回し、間拔けないたずらをするほど、自滅をさらに促すようになるだけである。

われわれは米国の一挙一動を注視している。

●労働新聞論評：南朝鮮執権者の就任100日の成績は落第（8/18）

18日付の「労働新聞」は署名入りの論評で、南朝鮮の現執権者が就任した時から100日が過ぎたが、その執権100日間の成績表はみすぼらしく極めて失望させられるもので、特に北南関係の項目はどうしようもない落第であると嘲笑した。

同紙は、南朝鮮当局が口では「対話」と「南北宣言の履行」などを騒いだが、行動はそれと正反対であったし、「南北関係の改善」を騒いだのは表裏があり、口先だけのこけおどしにすぎなかったと指摘し、次のように明らかにした。

わが民族を二つに分け、自主統一の道を執拗（しつよう）に阻む米国と共助してわれわれと対決しようとする南朝鮮執権者の反民族的計略は、「北の核放棄」を北南対話の目標に掲げたことで余すところなくあらわになった。

朝鮮半島核問題はわが共和国に対する米国の絶え間ない核の威嚇、恐喝で生じたものであって、徹底的に朝米間で解決すべき問題である。南朝鮮当局はこれに割り込んであれこれ言う何の名分も、資格もない。

南朝鮮執権者が持ち出した「制裁、圧力と対話の並行」論も米国の強盗さながらの反共和国圧殺策動に積極的に追従する許し難い反統一対決論である。

南朝鮮当局が今のように親米事大と反共和国制裁共助策動にしがみついたら、米国にさらに深く隷属し、外部勢力の悲惨ないけにえになって破滅的な運命しか与えられるものがない。

同紙は、南朝鮮当局が悪化の一路を突っ走っている北南関係の破局的現実から教訓を得なければならないと主張した。

●朝鮮外務省スポークスマン：朝鮮中央通信の質問に回答（8/19）

中南米諸国に朝鮮との断交強迫する米国を非難

最近、米国副大統領がチリを訪問し、ブラジルとメキシコ、チリ、ペルーにわれわれとの外交関係の断絶を求めた。

米国がわれわれと友好・協力関係を持つ国に外交および経済関係を断絶せよと強迫したのは、今回が初めてではない。

米国は、アジアとアフリカ、中南米、欧州の多くの国にわれわれとの全ての関係を全面的に遮断せよと迫り、圧力を加えている。

このような強権行為は、全世界をいけにえにして自分の利益を得ようとする米国の極端な利己心と傲慢（ごうまん）さを自らさらけ出すだけであり、対朝鮮敵視政策が極限に達したことを示している。

米国の関係断絶の圧力は、自主的な主権国家の内政に対する乱暴な干渉であり、国際法と国際秩序に対する露骨な挑戦であって、糾弾と排撃を免れない。

米国がわれわれに反対して行っている強盗さながらの制裁・圧迫策動を黙認、容認するなら、全ての国が米国の内政干渉行為の被害者になる結果を招くであろう。

われわれは今後も、自主、平和、親善の理念の下に各国との友好・協力関係をさらに強化し、発展させていくであろう。

誰が何と言おうと、不当で不法な反朝鮮制裁・圧力騒動を粉碎し、国の尊厳と戦略的地位を固守して真の国際正義を実現するためのわれわれの正当で責任ある努力は続くであろう。

●朝鮮スポークスマン：朝鮮中央通信の質問に回答（8/19）

国連事務総長が朝鮮半島問題の本質をミスリード

最近、国連事務総長は朝鮮半島問題に関する記者会見なる場で、朝鮮半島情勢の激化がわれわれの「核およびミサイル開発」によって始まったという妄言を並べた。

国連事務総長のこのような発言は、朝鮮半島核問題の本質に対する無知の表れであるとしか言えない。

明白にするが、朝鮮半島の核問題が発生し、情勢激化の悪循環が続く根源は全て米国の対朝鮮敵視政策と核の威嚇にある。

国連事務総長が朝鮮半島情勢を最悪の爆発ラインへ追い込んでいる米国には一言も言えずに、朝鮮半島問題の解決のために公正な立場を取ると言うのは理にかなわない。

朝鮮半島と地域で情勢を緩和させ、危険な軍事的衝突を防ぐには、われわれの周辺に多くの戦略核兵器を持ち込んで火種をつくった米国が先に正しい選択をし、行動で示すべきであろう。われわれは、米国の対朝鮮敵視政策と核の威嚇が根本的に清算されない限り、われわれが選択した核戦力強化の道からただの一步も退かないであろう。

●朝鮮人民軍板門店代表部スポークスマン談話（8/22）

侵略戦争演習によって招かれる破局的結果の全責任は米国が負うことになる

強盗の米帝は、われわれの意味深長な警告と内外の一樣な抗議、糾弾にもかかわらず、南朝鮮かいらい好戦狂と結託してまたもやわが共和国を侵略するための「ウルチ（乙支）フリーダムガーディアン」合同軍事演習を強行する道に入った。

現在、南朝鮮占領および海外駐屯米帝侵略軍1万7500余人と5万余人の南朝鮮かいらい軍、七つの追従国家の武力はもちろん、48万人のかいらい政府の公務員や警官、民間武力、民間企業の人員だけでなく、米本土と太平洋作戦地帯内に展開されている米帝侵略軍の戦争殺人装備を投入して朝鮮半島に殺伐とした戦争の雰囲気醸成している。

看過できないのは、敵が「年次的」だの、「防衛的」だのとやかましく騒ぎながらも、わが共和国を先制攻撃するための侵略戦争シナリオである「作戦計画5015」に従ってわれわれの最高首脳部を「排除」するための「斬首作戦」と「秘密作戦」の訓練、われわれの弾道ミサイルに対応する訓練に重点を置いて今回の演習を強行していることである。

朝鮮半島の軍事的緊張が極度に差し迫った現在の状況で、南朝鮮に集結したこの膨大な武力が実戦行動へ移らないという保証はどこにもない。

さらに現在、米帝侵略軍の高位頭目が南朝鮮に入って戦争謀議を凝らしているのは、事態の重大さをさらに倍加させている。

去る13日にはダンフォード米統合参謀本部議長が、20日にはハリス米太平洋軍司令官とハイテン米戦略軍司令官が南朝鮮に入ったし、続いて米ミサイル防衛局(MDA)のグリブス局長も入って戦争謀議を凝らした。

今回の合同軍事演習を前後してわれわれに対する先制攻撃と侵略戦争を直接担当、執行する米帝侵略軍の頭目の相次ぐ南朝鮮訪問に関連して内外の世論が深刻な懸念を表しているのは決して偶然ではない。

世界のホットスポットに米帝侵略軍の頭目が相次いで出沒した場所では違わず侵略戦争の火花が飛んだというのは、歴史が示す厳然たる事実である。

生じていた全ての事態は、核戦争の危険がわれわれを武力で占領しようとする下心をあくまで捨てていない米国から来ており、米帝こそ平和破壊の張本人であることを如実に実証している。

米帝好戦狂が現状で、慎重に行動し、正しい選択をせよというわれわれの警告を無視して危険千万な軍事的挑発を仕掛けてきた以上、白頭山革命強軍の無慈悲な報復と容赦ない懲罰を免れないであろう。

血まみれの牙をむいたオオカミがわれわれを食べようと群れを成して襲い掛かっているこの時、数十年間打ち固めてきた核抑止力を備えたわれわれが目が大きく開けて座視していると思うなら、それよりも大きな誤算はない。

米帝は、空言を言わないわが革命武力が任意の時刻に懲罰の砲火を浴びせられるよう引き金に指を掛けて発射待機状態で連中の一挙一動を鋭く注視していることをいつときも忘れてはならない。

つまらない侵略戦争演習騒動によって招かれる破局的結果に対する全責任は、われわれとの軍事的対決を選択した米国が負うことになるであろう。

●朝鮮外務省スポークスマン：朝鮮中央通信の質問に回答(8/31)

安保理「議長声明」を全面排撃

30日、国連安保理はわれわれの中長距離戦略弾道ミサイル「火星12」型の発射訓練が地域の平和と安定を破壊し、世界の安保の懸念を招いたかのように現実を歪曲(わいきよく)する「議長声明」なるものを採択した。

われわれは、主権国家の自衛的権利を乱暴にじゅうりんした国連安保理の「議長声明」を全面的に排撃する。

わが戦略軍が行った中長距離戦略弾道ミサイル発射訓練は、米国が自分らの態度を見守るとしたわれわれの警告に好戦的な侵略戦争演習である「ウルチ(乙支)フリーダムガーディアン」合同軍事演習で応えたことに対する断固たる対応措置の序幕にすぎない。

今回の訓練は、わが軍隊が行った太平洋上での軍事作戦の第一歩であり、侵略の前哨基地であるグアム島をけん制するための意味深長な前奏曲となる。

極度に緊迫した情勢を緩和することに関するわれわれの主動的な措置に背を向けてずうずうしく振る舞う米国にはおとなしく言葉で言うてはならず、行動で示さなければならないというのが今回、われわれがあらためて得ることになる教訓である。

われわれの革命武力は今後、太平洋を目標にして弾道ミサイル発射訓練を多く行って戦略兵器の戦力化、実戦化、現代化を積極的に推し進めていくであろう。

●朝鮮核兵器研究所声明：ICBM装着用水爆実験に成功(9/3)

朝鮮労働党の戦略的核戦力建設構想に従ってわれわれの核科学者は3日正午、わが国の北部核実験場で大陸間弾道ミサイル(ICBM)装着用水爆実験を成功裏に断行した。

今回の水爆実験は、I C B M弾頭部に装着する水爆の製作に新たに研究、導入した威力制御技術と内部構造設計方案の正確性と信頼性を検討、実証するために行われた。

実験の測定結果、爆発の総威力と分裂対融合出力の比率をはじめ核弾頭の出力指標と2段階熱核兵器としての質的水準を反映する全ての物理的指標が設計値に十分に到達したし、今回の実験が以前に比べて前例なく大きな出力で行われたが、地表面放出や放射性物質漏出が全くなく、周囲の生態環境に何の否定的影響も与えなかったことが実証された。

実験を通じて、水爆の第1段階の圧縮技術と分裂連鎖反応開始制御技術の精度を再確認したし、第1段階と第2段階の核物質利用率が設計に反映した水準に到達したことがあらためて実証された。

水爆の第2段階の核融合の出力を高める上で中核技術である核融燃料に対する対称圧縮と分裂起爆および高温核融合点火、続いて非常に速く展開される分裂・融合反応間の相互強化過程が高い水準で実現することを実証したことで、われわれが水爆の製作に利用した第1段階と第2段階の方向性結合構造と多層放射耐爆構造の設計が極めて正確であり、軽量化された熱放射遮蔽（しゃへい）材と中性子遮蔽材が合理的に選定されたことを確認した。

今回の実験を通じて、われわれは第1段階と第2段階で起こる複雑な物理的過程に対するわれわれ式の解析方法と計算プログラムが高い水準にあり、第2段階の核融合燃料の構造などチュチュ式に設計した核弾頭としての水爆の工学的構造が信頼し得るという結論を得た。

実験ではまた、核弾頭爆発実験と各種の弾道ミサイルの試射を通じて十分に検討された密集配置型核爆発制御システムの信頼性をあらためて確認した。

I C B M装着用水爆実験での完全成功は、われわれの主体的な核爆弾が高度に精密化されただけでなく、核弾頭の動作の信頼性が確実に得られ、われわれの核兵器設計および製作技術が核爆弾の威力を攻撃の対象と目的によって任意に調整できる高い水準に到達したことを明白に示したし、国家核戦力完成の完結段階の目標を達成する上で極めて有意義な契機となる。

I C B M装着用水爆実験が成功裏に行われたことに関連して、朝鮮労働党中央委員会は北部核実験場のわれわれの核科学者、技術者に熱い祝賀を贈った。

●朝鮮外務省スポークスマン：朝鮮中央通信の質問に回答（9/5）

米国の制裁策動にわれわれ式の対応方式で応える

われわれが断行したI C B M装着用水爆実験に対して米国が先頭に立って「糾弾」劇を演じ、反朝鮮制裁策動に熱を上げている。

4日、国連安全保障理事会の緊急会合なる場で米国代表は、朝鮮は国際社会の意思を無視して戦争を渴望しているだの何のの冗舌を弄（ろう）し、新たな「制裁決議」の採択を強要した。

米国がわれわれの自衛的核戦力強化に言い掛かりをつけてわが共和国のイメージを傷つけようと必死に出ているのは、緊張激化と核の脅威の張本人としての正体を覆い隠そうとする詭弁（きべん）である。

トランプが吐いた「炎と怒り」の暴言と現在起きている米国の狂乱的な反朝鮮圧殺騒動は、米国こそ朝鮮半島の平和と安定を願う国際社会の意思を無視して戦争だけを追求する強盗であることを明白に実証している。

I C B M装着用水爆実験は、われわれが選択した並進の道で必ず経なければならない正常な工程であり、誰もとやかく言えない。

われわれは、長々数十年間続く米国の敵視策動と核の威嚇、恐喝を根本的に除去するために核保有を選択したし、経済建設と核戦力建設の並進に関する戦略的路線を堅持している。

トランプ政権時代に入ってわれわれの自主権と生存権、発展権を完全に抹殺しようとする米国の策動がさらに無分別になるにつれ、われわれは国家核戦力強化にさらに拍車を掛けざるを得なくなった。

われわれが今回行った I C B M 装着用水爆実験は、国家核戦力完成の完結段階の目標を達成するための一環である。

そこで、われわれは地球上のどの侵略勢力も断固撃退し、朝鮮半島と地域の平和と安全を頼もしく守れる最強の核抑止力を備えるようになった。

米国がいわゆる「全ての選択案」をうんぬんして政治と経済、軍事の全ての分野で前代未聞の悪辣（あくらつ）な制裁と圧力を加えることで、われわれを驚かせたり、変えられると思うなら、それよりも大きな誤算はない。

米国の強盗さながらの制裁・圧力策動にわれわれはわれわれ式の対応方式で応えるであろうし、米国はそこから招かれる破局的な結果について全責任を負うことになるであろう。

米国は原爆、水爆と共に I C B M まで保有した名実相俵う核強国としてのわが国家の実体を一瞬も忘れてはならない。

●朝鮮外務省声明：「制裁決議」採択なら最後の手段辞さない（9/11）

わが共和国の自主権と生存権を完全に抹殺しようとする米国の制裁・圧力策動が極めて無謀な域に至っている。

今、米国はわれわれの大陸間弾道ミサイル装着用水爆実験に言い掛かりをつけ、国連安全保障理事会を盗用して史上最悪の「制裁決議」をでっち上げようと必死に策動している。

われわれは日々増大する米国の敵視策動と核の脅威を抑止し、朝鮮半島と地域に生じている核戦争の危険を防止するための手段として超強力熱核兵器を開発し、完成させた。

しかし、米国は大勢を直視して正しい選択をする代わりに、われわれの正当な自衛的措置をわれわれの首を絞めて完全に窒息させる口実に使おうとしている。

われわれは、米国が既に完結段階に到達したわれわれの国家核戦力強化を逆戻りさせようとする夢想にとらわれて血に飢えたけだものの本性を現していることに対して絶対に袖手傍観できない。

われわれは今、米国の態度を鋭意注視している。米国が国連安保理でより苛酷な不法、無法の「制裁決議」をあくまででっち上げる場合、われわれは必ず米国にそれ相応の代価を払わせるであろう。

われわれは、いかなる最後の手段も辞さない準備が全てできている。

われわれが取ることになる次の措置は、米国を史上類例なく困惑させるであろう。

世界は、われわれが米国が考えもできない強力な行動措置を連続的に講じて強盗の米国をどう治めるのかをはっきり見ることになるであろう。

米国はわれわれの再三の厳かな警告にもかかわらず、極端な政治的・経済的・軍事的対決へと突っ走る限り、取り返しのつかない破滅を免れないことを銘記しなければならない。

●朝鮮外務省報道：安保理制裁決議を全面排撃し、米国と実際の均衡を築く（9/13）

12日、米国とその追従勢力は国連安全保障理事会でわれわれの大陸間弾道ミサイル（I C B M）装着用水爆実験に国際平和と安全に対する「脅威」であると言い掛かりをつけ、史上最悪の反朝鮮「制裁決議」をまたしてもでっち上げた。

われわれは、米国があらゆる卑劣で悪辣な手段と方法を全て動員してつくり上げた国連安保理「制裁決議」第2375号をわが共和国の正当な自衛権を剥奪し、全面的な経済封鎖でわが国家と人民を完全に窒息させることを狙った極悪非道な挑発行為の産物であると峻烈に断罪、糾弾し、全面的に排撃する。

米国の主導の下にまたしても演じられた不法、非道な「制裁決議」採択劇は、われわれにわれわれが選択した道が極めて正当であることを確認し、けりをつける時までこの道を変わりなくより速く進まなければならないという意志をさらに固めさせる契機となった。

前代未聞の反朝鮮制裁・圧力策動でわれわれの発展を阻んで武装解除させ、核兵器でわれわれを組み伏せようとする米国の企図が明白になった以上、われわれは米国と実際の均衡を

成してわれわれの自主権と生存権を守り、地域の平和と安全を保障するための力を打ち固めていくのにさらなる拍車を掛けるであろう。

●朝鮮外務省スポークスマン談話：われわれは制裁に揺らがない（9/18）

最近、米国とその追従勢力はわれわれの国家核戦力強化に国際平和と安全に対する「脅威」であると言いつけつて史上最悪の対朝鮮「制裁決議」第2375号をでっち上げたのに続き、「決議」の履行をうんぬんする国連安全保障理事会の報道声明なるものをでっち上げた。

今、米国の対朝鮮制裁策動はわれわれの対外経済関係はもちろん、人民生活に直結した物まで全面的に封鎖する無謀な段階に至った。

これは、われわれの体制と政権はもちろん、わが人民を物理的に完全に抹殺しようとする最も極悪非道で反人倫的な敵対行為である。

問題は、米国がわれわれに対する制裁、圧力がいわゆる平和的解決のためのものであるという詭弁を流して世論をミスリードしていることである。

相手の首を締め、窒息させてその意志をくじき、自分の意思を押し付けるのが何の平和的・外交的解決であるのかということである。

米国が一方では「軍事的選択」を排除しないと騒いで制裁はすなわち、平和的解決であるという強弁を張っているのは事実上、国際社会が自分らが主導する制裁に合流しなければ朝鮮半島で核戦争を起こすという露骨な脅迫である。

米国の下心は、朝鮮半島と地域で緊張激化と戦争勃発を願わない各国の反発をなだめ、どんな手を使ってでもこれらの国を対朝鮮制裁・圧力に引き入れようということである。

米国がわれわれに対する制裁・圧力策動を正当化しようと鉄面皮で陰険に振る舞っているが、誰もだませない。

半世紀以上にわたる制裁の中でも、名実共に核強国の地位を堂々と占めて経済強国の建設で飛躍的な発展を遂げているわれわれが制裁の類いに揺らぐと思うのは愚か極まりない妄想である。

米国とその追従勢力が対朝鮮制裁・圧力策動にしがみつくと、国家核戦力完成の終着点へ疾走するわれわれの速度はさらに増すであろう。

米国の対朝鮮制裁に便乗している国々は、朝米間に実際の力の均衡が成された時に何を言うのかでもあらかじめ考えておく方が良からう。

●朝鮮民主主義人民共和国国務委員会 委員長声明（9/21）

トランプが宣戦布告をしてきた以上、それに相応する史上最高の超強硬対応措置の断行を慎重に考慮する

最近、朝鮮半島情勢が前例になく激化し、刻一刻、一触即発の危機状態に陥っている深刻な状況の中、国連の舞台に初めて行った米国執権者の演説内容は世界的な関心事にほかならない。

ある程度は推測していたが、私は、それでも世界最大の公式の外交舞台であるだけに、米国の大統領なる者が以前のように自分の事務室で即興的になんでも出任せに言い放ったのは多少区別される、型にはまった準備された発言をするものと予想していた。

しかし、米国執権者は情勢緩和に役立つそれなりに説得力のある発言をするどころか、わが国家の「完全破壊」という歴代のどの米国大統領からも聞いたことがなかった前代未聞の横暴非道な狂人じみたラップを吹いた。

怖じ気づいた犬ほど吠え立てるものである。

トランプに勧告するが、世界に向かって物を言うときは適当な言葉を慎重に選び、相手によって使い分けなければならない。

われわれの政権を交代させ、体制を転覆させるという威嚇の枠を超えて、一つの主権国家を完全に壊滅させるという反人倫的な意志を、国連の舞台上で公言する米国大統領の精神病的な狂態は、正常な人まで事理の分別と冷静さを失わせる。

今日、私は米国大統領選挙当時、トランプについて「政治門外漢」、「政治異端児」と嘲笑った言葉を再び思い起している。

大統領になって世界の全ての国々を威嚇・恐喝し、世界をかつてなく騒がせているトランプは、一国の武力を掌握した最高統帥権者としては不適格であり、彼は明らかに政治家ではなく火遊びを好む、ならず者、ごろつきに違いない。

あからさまな意思表示で、米国の選択肢について説明した米国執権者の発言は、私を驚かせたり、立ち止まらせたのではなく、私が選択した道が正しく最後まで進むべき道であることを確認した。

トランプが世界の面前で私とわが国家の存在そのものを否定し、侮辱し、わが国をなくしてしまうという歴代最も暴悪な宣戦布告をしてきた以上、われわれもそれに相応する史上最高の超強硬対応措置の断行を慎重に考慮するだろう。

言葉の意味も分からず、自分の言いたいことばかりを言う老いぼれには行動で示すのが最善である。

私は朝鮮民主主義人民共和国を代表する人間として、わが国家と人民の尊厳と名誉、そして私自身の全てを懸けて、わが国の絶滅を言い放った米国統帥権者の妄言に対する代価を必ず払わせるだろう。これはトランプが好む修辭学的表現ではない。

私は、トランプがわれわれのどれほどの反発を予想して、あんな奇怪な言葉を口にしたのか深く考えている。

トランプが何を考えたとしても、それ以上の結果を見ることになるであろう。

米国の老いぼれ狂人を必ず、必ず、火をもって治めるだろう。

●第72回国連総会での李容浩（リ・ヨンホ）外相の演説（9/23）

議長、ミオスラフ・ライチャーク先生が、国連第72回総会の議長に選出されたことをお祝い申し上げます。また、貴殿の素晴らしい司会の下、本会議で立派な実を結ぶであろうという期待を表明します。

私はまず、4日前、神聖なるこの国連会議場を甚だしく汚した米国大統領という者の演説について論評し、本論に入ることになります。

トランプがまさにこの演卓で朝鮮民主主義人民共和国の最高尊厳について触れ、われわれを威嚇する妄言と暴言を吐いたので、私も同じ演卓で同じ言葉遣いでそれに応じるのが適当だと思います。

今回トランプは、自らの妄言によって就任8ヶ月でホワイトハウスを騒々しい市場にしたのに続き、国連の舞台までカネと刃物を振り回すことしか知らない、チャンピラたちの乱闘場にしようとしてきました。

トランプのように誇大妄想と錯誤が重なった精神異常者、アメリカ人でさえ、苦痛だけをもたらすと「最苦痛司令官」、「嘘の親分」、悪の大統領という意味で「悪統領」と呼ばれている者が、米国大統領の座にいるというこのとんでもない現実。手のひらほどのわずかな土地を手に入れる為に、脅しと詐欺を含むあらゆる共謀術策を見栄えなく使い、年齢を重ねてきた投資家が、米国の核のボタンを握っているというこの危険千万な現実。これがまさに、今日の国際平和と安全に対する最大の脅威になっています。

トランプは、常識と情緒がまともではないので、わが国の最高尊厳をロケットと結びつけて冒険しようとしてきましたが、むしろそれによって米国全土をわれわれのロケットの訪問から一層避けられなくするという、挽回できない間違いを犯しました。

自爆攻撃を始めたのは、他でもないトランプです。この攻撃によって、米国の地の罪なき命が災いを被るのであれば、それはすべてトランプの責任となるでしょう。

朝鮮民主主義人民共和国国務委員会委員長であられる敬愛する金正恩同志は、「私は朝鮮民主主義人民共和国を代表する人間として、わが国家と人民の尊厳と名誉、そして私自身の全てを懸けて、わが国の絶滅を言い放った米国統帥権者の妄言に対する代価を必ず払わせるだろう」と声明されました。

トランプとしては、自分で何を言っているのか分からないのかも知りませんが、私たちは必ず、トランプに彼が言い放ったこと以上の結果、彼が到底責任を取れないほどの結果がもたらされるようにします。

議長、本会議の主題は、「人間を中心に：皆が謳歌できるきれいな地球での平和で豊かな生活のために」です。

全ての国と人民の平和で豊かな生活のためには、何よりも真正な国際的正義が実現されなければなりません。国際的正義を実現することは、国連の基本使命の一つです。

議長、国連憲章第1条は、平和の破壊をもたらす国際紛争や事態を平和的な方法で、そして正義と国際法の原則に則って調停、解決することを規定しています。

しかし現在国連では、1つの大国の横暴な強権と専横により、国連憲章の目的と原則をはじめとした、公認された国際関係の基本原則が公然と無視されています。

強権と専横を合理化、合法化し、真理と正義が踏みにじられる非正常な現象が、許容、黙認されています。

国際的正義が最も激しく蹂躪されているところがまさに朝鮮半島です。

被害者が加害者に反抗するからといって、被害者に制裁を課するという万古の不正義が、次々と国連の名で行われています。

朝鮮半島事態の本質は、私たちを敵対視し核に威嚇をしている米国と、それに対抗して国と民族の尊厳と自主権を守ろうとしている共和国との対決です。

米国は、この世界で初めて核兵器を作った国であり、この世界で唯一、核兵器を実戦で使用し、数十万の無垢の人民を大量殺戮した国です。

1950年代の朝鮮戦争期、原爆を使用すると共和国を公然と威嚇した国であり、戦後には朝鮮半島に初めて核兵器を持ち込んだ国です。

冷戦期に始められた共和国に反対する大規模合同軍事演習を冷戦後にはさらに規模を拡大し、さらに攻撃的な性格で、さらに多くの核戦略兵器を動員して、1年に何度も毎年行っている国です。

世界最大の核保有国の最高当局者が、私たちに「炎と怒り」を被らせる、「完全破壊」すると暴言を吐いている以上の核による威嚇がどこにあるのでしょうか。

朝鮮民主主義人民共和国は、徹頭徹尾、米国のせいで核保有せざるを得なくなったのであり、米国のせいで核武力を今日のレベルまで強化、発展せざるを得ませんでした。

米国の対朝鮮敵対視政策と核威嚇の歴史が70年という長期にわたり続けられており、それによって、朝鮮半島情勢がついに爆発直前に至りましたが、国連では米国の強権によって正義を不正義として犯罪視する「決議」とはいえない決議ばかりが乱発されています。

朝鮮民主主義人民共和国国務委員会委員長であられる敬愛する最高指導者、金正恩同志は、国際的正義は自ずと成されるものではなく、反帝自主的な国々の力が強い時にだけ実現できると言われました。

国際的正義が実現されない限り、唯一、力には力で対抗しなければならず、暴政の核は正義の核ハンマーで叩き治めなければならないという哲理だけが成立します。

朝鮮民主主義人民共和国が核抑止力を保有することになったのは、まさにこの哲理に沿って、最後の選択として取った正々堂々たる自衛的措置です。

先日、朝鮮民主主義人民共和国は、国家核武力完成の完結段階の目標を達成するための一環として、大陸間弾道ロケット装着用水爆実験を成功裏に断行しました。

これによって、共和国は経済建設と核兵力建設の並進路線による、国家核武力完成の完結段階へと入りました。

私たちの国家核武力は、徹頭徹尾、米国の核による威嚇を終わらせ、米国の軍事的侵攻を防ぐための戦争抑止力であり、最終目標は、米国と力の均衡を成し遂げることです。

本総会に参席した全ての国の代表は、今日、共和国が他の核保有国とは異なり、核武力の開発と高度化の全ての段階別試験過程とその結果をその都度、世界に公開してきたことを知っています。

朝鮮半島と地域の平和と安全を守る戦争抑止力が強化され、米国と追従勢力は、わが共和国に軍事的挑発を加える前に深思熟考しなければならなくなりました。「炎と怒り」、「完全破壊」を云々しても、その都度、「そういうことが起こらないことを願っている」、「それが優先的な選択ではない」などと苦しい条件を付けざるを得なくなりました。それほど、東北アジアとアジア地域全般の平和と安全も強固になったと私たちは確信しています。

私たちは、核保有国という地位と核打撃能力に対して誰かによる承認を必要としていません。

朝鮮民主主義人民共和国の神聖なる国名が刻まれた大陸間弾道ロケットが万里蒼空の宇宙を飛び、私たちのロケットの弾頭部が太平洋の青い水面に痕跡を刻み、水爆の巨大な振幅を地球が記録しました。

私たちの核保有の決心は、米国によって強要された避けることができない選択でしたが、その結実として達成された今日の核強国としての地位、ロケット強国の地位は、永遠不滅の共和国の運命になりました。

議長、国連が真正な国際的正義を実現するにおいて、自らの役割を果たせていないのは、安保理事会の非民主主義的な旧態と決定的に関連しています。

国連憲章第1条から無視し、徹頭徹尾、常任理事国の意思と利害関係に沿って動いているのが、まさに国連安保理事会です。

安保理事会改革に関する問題が、既に1992年、国連第47回総会決議47-62号として決定されたのは偶然ではありません。

その時から安保理事会改革問題が、毎年、国連総会に上程されていますが、この25年間、何の進展もなく、空転を繰り返しているという事実自体が、現在の安保理常任理事国が、時代錯誤的な既得権にどれほど執着しているのかをよく示しています。

常任理事国であれば、独自でも190国あまりの国連加盟国の総意を拒否できる、徹底した反民主主義的な機構がまさに国連安保理です。

私はこの演壇から、安保理がデッチ上げた反共和国「決議」の不当性と不公正さについて、もう一度確認しようと思います。

第一に、国連安保理事会は、宇宙空間の平和的利用を各国の自主的権利として明示した国際法に違反し、そして衛星打ち上げを行う他国に対しては問題視することなく、唯一、朝鮮民主主義人民共和国に対してだけ、衛星打ち上げを禁止するという不法で二重基準的な「決議」をデッチ上げました。

第二に、核実験禁止に関する国際法が未だに発効していないので、この問題は、徹底して各国の自主権に属する問題であるにもかかわらず、ましてや核実験を遙かに多く行った他国については全く問題視することなく、唯一、朝鮮民主主義人民共和国に対してだけ勝手に核実験を禁止するという不法で、二重基準的な「決議」をデッチ上げました。

第三に、各国の自衛権を認めた国連憲章第51条に反し、そして、各種新型核兵器を次々と開発している他国については問題視することなく、唯一、朝鮮民主主義人民共和国に対してだけ核兵器開発を「国際平和と安全に対する脅威」だと罵倒し、それを根拠に制裁を課するという不法で二重基準的な「決議」をデッチ上げました。

こうした不当で不公正な決議が通過し続けているのは、核保有国である常任理事国が、彼らの核独占地位を固守することに、共通の利害関係があるからです。

国連安保理常任理事国は、核兵器拡散防止について色々言っていますが、共和国の核保有は、核兵器拡散防止の見地からも、正々堂々たる自衛的措置です。

核兵器拡散防止に関する国際的合意は、そもそも非核保有国に対して核による威嚇をしないという核保有国の約束があったので、はじめて可能になった問題です。

締約国の最高利益が危険に直面する場合には、条約から脱退する権利を持つと規定した核拡散防止条約第10条自体が、国家の最高利益が、核拡散防止よりも優位にあるということを認めています。

結局、米国は共和国に対する核威嚇を最後まで放棄することなく、われわれを核保有へと追いやることで、自らが核拡散防止の努力を阻害したのです。これは、反共和国「決議」が、何らかの原則に基づくものではなく、安保理の反民主主義的な旧態と、既得権勢力の共謀と結託の産物以外のなにものでもないということを雄弁に物語っています。

米国は、国連の舞台でまで、共和国が水爆と大陸間弾道ロケットを持つようになったことが、「世界的な脅威」であると騒ぎ立てていますが、これは2003年にイラクに侵攻するために、イラクに大量破壊兵器があるとでっち上げた米国の悪名高い「大嘘」とまったく同じ大嘘です。

朝鮮民主主義人民共和国は、責任ある核保有国です。

米国と追従勢力が、共和国の指導部に対する「斬首」や共和国に対する攻撃の気配を示すときは、容赦ない先制行動で予防措置を取りますが、米国の反共和国軍事行動に加担しない国々に対しては、絶対に核兵器を使用したり、核兵器で威嚇する意思がありません。

私たちの核保有を「世界的な脅威」と罵倒しているのは、他の国連加盟国に反共和国「制裁決議」を履行するよう強迫することを目的とした術数です。

自らは朝鮮半島の核問題の責任から抜け、何の関係もない他国を動員して犠牲にして、目的を達成しようという米国の凶悪な利己的行為です。

共和国政府は、安保理「決議」の法律的妥当性と適法性如何について確認できる、国際法の専門家によるフォーラムの開催を国連事務局に提起しましたが、事務局は9ヶ月過ぎても回答を出せずにいます。

侵略的で挑発的で大規模な米国・南朝鮮合同軍事演習が醸成する国際平和と安全に対する嚴重な脅威について、共和国政府が幾度も繰り返し提訴しましたが、国連安保理が一度も上程議論することなく、毎回無視しているのとまったく同じ現象です。

国連憲章は、全ての加盟国に安保理の決議を尊重し、履行することを義務化しています。

安保理の反共和国「決議」が、本当に適法で公正なものであれば、米国が自国のすべて大使はもちろん、大統領と国務長官まで動員して、他国にその履行を強迫する必要はなかったはずで、日本、南朝鮮といった、下手人まで急き立てる必要もなかったはずで、

国連加盟国は、安保理の決議について、個別的大国の強迫に屈服するのではなく、自主的な判断で、適法性と公正性、道徳性について判断すべきであり、強権と専横に反対する正義の声を高めることで、理事会の改革を積極的に主導すべきです。

議長、米国は、共和国に対し創建当初から制裁を課しており、70年にわたる共和国の歴史は、世界で最も残酷な制裁を受けながらも、自強の道をひるまずに歩んできた長い闘いの歴史でもあります。

このような長い闘いを経て、国家核武力完成の終着点を目前にしているわが共和国が、敵対勢力の制裁がさらに悪辣になったからといって、揺るいだり、態度を変えようとするのは、とんでもない妄想に過ぎません。

これから遠からず、共和国に科された反人倫的で野蛮な制裁によって、国の平和的な経済発展と人民生活向上で被った被害、無辜の女性や子供、老人も含む全ての人民が被った被害を計算する日が、必ず来ることでしょう。

共和国には既に、各種制裁による被害を全面的に調査する国家的な被害調査委員会が組織されています。この委員会は、米国とその追従勢力、米国の強迫に屈服した一部の国が、わが共和国にもたらした物理的、道徳的被害を徹底して調査、集計することになるでしょう。

もし、こうした制裁、圧迫騒動が限界点に至り、朝鮮半島情勢がついに統制不可能な状況になったとしても、その責任を追及することにおいて、この委員会の調査結果が重要な資料として考慮されることでしょう。

議長、私たち代表団はこの機会に、米国の強権と専横、一方的な封鎖に対抗し、国の自主権を守護し、国際的正義を実現するために闘っているキューバ政府と人民に、固い支持と連帯を表明します。

国の自主権と社会主義偉業を守護するためのベネズエラ政府と人民にも固い支持と連帯を表明します。

米国に庇護されているイスラエルによるあらゆる悪行については目をつぶり、国の自主権と安全を守ろうとするシリア政府に対してだけ、各種攻撃を加える不当で卑劣な行いがこれ以上許されてはなりません。

共和国政府は、強力な核抑止力に依拠し、必ずわれわれの力でわが国の平和と安全を守り抜き、世界の平和と安全を守護することにおいても積極的に寄与するでしょう。

ありがとうございました。

●朝鮮外務省スポークスマン談話：米大学生「拷問」説は存在しない（9/28）

最近、トランプ一味がわが国で反朝鮮犯罪行為を働いたことで教化中にあったが、米国に帰った後に死亡した米大学生のワームビア氏の問題を反朝鮮謀略宣伝に再び利用している。

トランプは、「北朝鮮はワームビア氏を誘拐、拷問し、故意に負傷させた」という指摘に、ワームビア氏が「信じられないほどの拷問を受けた」だのの妄言を並べたし、米務省はワームビア氏の問題に関連してわが国を「テロ支援国家」に再指定する準備ができていると述べた。

国際的な対朝鮮圧力の雰囲気や鼓吹するための謀略騒動に既に死亡したワームビア氏まで利用しているのを見ると、米国の政策作成者の対朝鮮敵対感がどれほど根深くて悪質であるのかがよく分かる。

あらためて明白にするなら、ワームビア氏は米国の反朝鮮謀略団体の任務を受けてわれわれに対する敵対行為を働いたことによって2016年3月16日、朝鮮の法にのっとり労働教化刑を言い渡された犯罪者であるが、われわれは彼の健康状態が悪化したことに関連して人道的見地から彼が米国に帰る時まで誠意を尽くして治療した。

米国が騒ぐ何の「拷問」の事実も存在しないことは、去る6月にわが国を訪れてワームビア氏の検診を行った米国の医師とワームビア氏の帰国後に検診を行った医師までも明白に認めたことである。

トランプと米国が真にワームビア氏の死亡に胸が痛むなら、学業に励むべき大学生まで唆してわが共和国に反対する犯罪行為に駆り出した自分らの罪をまず反省し、謝罪すべきであろう。

現米政府がワームビア氏の死亡問題で再びわれわれに悪辣（あくらつ）に言い掛かりをつけたのは、決して彼らが口癖のように唱える「米国公民の安全」のためではなく、むやみに口を開いてわれわれの超強硬立場に打撃を受けたトランプが地に落ちた自分の「体面」を少しでも挽回しようとじたばたして考案した幼稚で卑劣な反朝鮮謀略・捏造（ねつぞう）品にすぎない。

さらに看過できないのは、米国内の有象無象があえてわれわれの最高の尊厳にまで言い掛かりをつけたことである。

老いぼれ狂人のトランプと有象無象が虚偽、捏造で一貫した謀略資料でわれわれの神聖な最高の尊厳にまで言い掛かりをつけたのは、わが千万軍民の込み上げる対米敵愾（てきがい）心と百倍、千倍の報復の意志をさらに固めさせている。

現実には、最大の敵国である米国に寛容や人道的考慮は絶対に禁物であるという教訓をあらためて心に刻ませている。

トランプは、このような反朝鮮謀略騒動がもたらす破局的結果について熟考すべきであり、ぺちやくちやとしゃべって口を慎まないことで生じる全ての忌まわしいことに対して自分ら自身が責任を負うことを銘記しなければならない。われわれは米国の今後の行動を注視するであろう。

●朝鮮制裁被害調査委員会スポークスマン談話（9/29）

米国の対朝鮮「単独制裁」追加を糾弾

最近、トランプ政権は国連総会の舞台であえてわが国家の「完全破壊」という横暴非道な狂人のラッパを吹いて世界的な糾弾と反発に直面すると、わが共和国に対する極悪な制裁策動の度合いをさらに高めている。

21日、トランプはわれわれと貿易・金融取引を行う全ての個人と団体に無差別な制裁を加えることに関する大統領令に署名したし、それに従って米財務省はわれわれの銀行8行と関係者を制裁対象に追加した。

これは、わが国家の「完全破壊」を言い散らした米国執権者に対するわが軍隊と人民の激しい憎悪と怒りの爆発におじけづいてわれわれの対外経済関係を完全に遮断するのも同然の卑劣な制裁・封鎖策動であり、自分らの反人倫的野望を実現しようとする断末魔のあがきである。

米国は、国連安全保障理事会を盗用してわが共和国を窒息させるための不法、無法の「制裁決議」をでっち上げたのにも満足せず、その抜け穴をふさがなければならないと騒ぎ、われわれと経済・貿易関係を持つ他国まで制裁対象にしている。

米国が大々的に行っている一方的な制裁・圧殺策動は、主権平等と自決権、発展権の尊重など普遍的な国際法の原則に対する乱暴な違反であるだけでなく、平和的住民の生存権を無差別に侵害する野蛮な犯罪行為である。

今、米国は不公正な現在の国際経済秩序と金融システムで占めている特権的地位を悪用し、自分らの国内法に基づいて制裁のこん棒をむやみに振り回しており、強盗の要求を米国外に強制的に押し付ける暴悪極まりない強権と専横に明け暮れている。

わが国家と人民の完全抹殺を狙った米国の制裁策動は、その悪辣さと野蛮さで古今東西に見られない極悪な犯罪であり、それがわが国家の発展と人民生活に及ぼす被害と損失は計り知れないほど莫大である。

米国とその追従勢力がわが共和国に及ぼした物質的・道徳的被害を徹底的に調査、集計することを使命とする制裁被害調査委員会は、日々重大になる米国の「単独制裁」策動を強く断罪、糾弾し、その代価を最後まで受け取るであろう。

半世紀以上にわたる制裁の中でも名実相伴う核強国の地位を堂々と占めて経済強国の建設で飛躍的な発展を遂げているわれわれが、制裁の類いに揺らぐと思うのは愚か極まりない妄想である。

米国は、わが共和国に反対する前代未聞のヒステリーに熱を上げるほど、自分らの最も悲惨な破滅だけを早めることをはっきりと知らなければならない。

●朝鮮・欧州協会スポークスマン談話（10/2）

英国は戦略的眼識持って朝鮮と接するべきだ

9月29日、英国防相がスコットランドの英原子力潜水艦基地を訪れた北大西洋条約機構（NATO）事務総長を歓迎する式典で、英国の核抑止力が北朝鮮とロシアから英国を守ると述べ、われわれの核計画を終わらせるために米政府と共に努力していると妄言を吐いたという。

英国防相の今回の妄言は、自分らが追求する核兵器の近代化の口実を無理やり他から求めようとする極めて苦しい発言である。

われわれは、英国が20世紀に米国の側に立って朝鮮戦争に軍隊を派遣したが、新世紀に入って両国が公式に国家関係を結んだだけに、英国を敵と見なさないことを何度も明らかにしてきた。

にもかかわらず、最近、英国の一部の政治家の間で朝鮮半島で軍事的衝突が起きる場合、英国が介入する可能性を排除しないという発言が出ていることに対してわれわれは当然の警戒心を持って注視している。

その上、英国防相がわれわれの核抑止力が自分らに脅威になると強弁を張ったばかりか、われわれの最高の尊厳まで持ち出したのは到底許し難い行為である。

あらためて想起させるが、われわれの核戦力強化措置は徹頭徹尾、国の自主権と生存権、発展権を抹殺してわが共和国を全滅させるという米国の極悪な対朝鮮敵視政策と核の恐喝から朝鮮半島と地域の平和と安全を守るための自衛権の行使である。

誰であれ、強力な核抑止力を実質的に保有したわが共和国と米国の対決にむやみに飛び込むのは、みの着て火事場に入る愚かな行為となる。

英国は、米国と協力して既に水爆と大陸間弾道ミサイル（ICBM）まで保有したわれわれの核抑止力をなくそうという妄想から脱し、戦略的眼識を持ってわれわれと接する方が良かろう。

英国防相は、悪の根源にはあくまでも背を向けて米国に踊らされるのではなく、言動を慎むべきであろう。

●金正恩朝鮮労働党委員長が党中央委員会第7期第2回総会で行った第1議題「現情勢に対処した当面のいくつかの課題について」に関する報告の要旨（10/7）

米帝が追従勢力を糾合して国連安全保障理事会「制裁決議」なるものを次々とつくり上げてわれわれの自主権と生存権、発展権を完全に抹殺するために最後のあがきをしている。

われわれの核兵器は、長期間にわたる米帝の核の脅威から祖国の運命と自主権を守るためのわが人民の血みどろの闘いがもたらした貴い結実であり、朝鮮半島と東北アジア地域の平和と安全をしっかりと守り、朝鮮民族の自主権と生存権、発展権を頼もしく保証する威力ある抑止力、暴悪な核の雲を吹き飛ばして人民が晴れて青い空の下で自主的な幸せな生を享受できるようにする正義の宝剣である。

今年、米帝とその追従勢力のエスカレートする制裁の中でも国の科学技術が飛躍的に発展したし、その威力で人民経済が成長した。

現情勢とこんにちの現実を通じ、わが党が経済建設と核戦力建設の並進路線を堅持してチュチェの社会主義の道に沿って力強く前進してきたことが至極正しかったし、今後も変わることなくこの道へ前進しなければならない。

わが党が正確な自分の指導力を全て発揮して世紀をまたいできた反米対決戦を総決算し、社会主義偉業の勝利を早めるであろう。

一心団結はわが党と国家存立の礎石であり、わが革命の最強の武器である。党と国家の全ての活動を革命隊伍（たいご）の一心団結強化に徹底的に志向させ、服従させて人民のために滅私奉仕する革命的党風をさらに徹底的に確立しなければならない。

米帝とその追従勢力の極悪非道な制裁・圧殺策動を水泡に帰させ、災いを福に転じさせるキーポイントがまさに自力更生であり、科学技術の力である。人民経済の自立性と主体性を全面的に強化しなければならない。

人民経済の主体化路線、自力更生のスローガンをさらに高く掲げて国の経済をわれわれの力、われわれの技術、われわれの資源に依拠する自立的な経済に発展させる闘いを頑強に展開してこんにちの峻巖（しゅんげん）な難局を切り抜ける過程がまさに、自立経済強国の建設で画期的な転換をもたらす契機にしなければならない。

科学技術は社会主義強国の建設を主導していく機関車である。全ての部門、全ての部署で科学技術を確固と優先させ、自分の科学技術力量と生産者大衆の力と知恵を汲み上げて党の経済政策を貫徹しなければならない。

こんにちの情勢は峻厳であり、われわれの前には試練が立ちはだかっているが、わが党は全ての軍隊と人民の絶対的な支持と信頼を受けているのでいつも心強く、いかなる天地地変の中でも自主的な路線を堅持し、常勝の道を開いていくであろう。

偉大な金日成主席と金正日総書記が築いてくれた強固な自立的経済の土台があり、わが党が育てた科学者大軍とわが党の革命精神で武装した軍隊と人民、自力更生の闘争伝統があるので、われわれの偉業は必勝不敗である。

●朝鮮外務省キム・グアン八研究士が論評（10/13）

米の軍事的妄動に軍事的対応せざるを得ない

最近、トランプ一味が戦略核兵器をわれわれの周辺に次々と投入し、われわれに対する軍事的虚勢を張っている。

外電によると、10日にトランプがホワイトハウスで軍幹部と会ってわれわれに対する軍事的対応案を討議したのと時を同じくして、米国は同日夜、朝鮮東海の上空に2機の戦略爆撃機B1Bを投入して日本の航空「自衛隊」、かいらい空軍戦闘機とおのおの夜間飛行訓練劇を演じた。

これとともに、トランプ一味は南朝鮮の釜山港に原子力潜水艦ミシガンを投入する、10月中旬に南朝鮮の周辺水域に原子力空母ロナルド・レーガンを派遣してかいらいと「高強度」連合訓練を行うとし、われわれに対する軍事的圧力を鼓吹している。

看過できないのは、これらの軍事的動きが最近、トランプがツイッターにこの25年間、米国が北朝鮮との交渉がうまくいかず、何も得られなかったのだ、「たった一つのことだけが効果があるであろう」だのの類いの文を載せ、「嵐の前の静けさ」だの、誰それを「完全に破壊する」だのの類いの妄言を吐いて「軍事的選択案」についてしきりに暗示する中で繰り返されていることである。

現在、トランプ一味は戦略爆撃機B1Bや原子力潜水艦、原子力空母を朝鮮半島の周辺水域に投入するなど、無分別な軍事的挑発を行うことで、あえてわれわれに手出ししようとしており、このような軍事的妄動はわれわれにやむを得ず軍事的に対応せざるを得なくさせている。

トランプ一味の無分別な軍事的挑発策動は、われわれが自衛的核抑止力をあらゆる面から強化してきたのが極めて正当であったし、今後も最後までこの道を疾走すべきであることを再び痛感させている。

われわれは、米国がわれわれの周辺水域と太平洋が静かな日がなく暴れ、デリケートな地域で軍事的妄動に明け暮れているのに関連して米国の対朝鮮侵略の前哨基地、発進基地であるグアム島周辺に対する包囲射撃の断行をはじめ自衛的対応措置を取ることを既に何度も警告している。

米国の軍事的妄動は、われわれに、米国を必ず火で制するべきであるという決心をさらに固めさせおり、超強硬対応措置の「引き金」を引くよう後押ししている。

今後、朝鮮半島で何らかの衝撃的な事件が起こる場合、その全責任はやみくもに対策のない客気に駆られて朝鮮半島情勢を最悪の爆発ラインに追い込んでいる米国が負うことになるであろう。

●朝鮮外務省スポークスマン：朝鮮中央通信の質問に回答（10/14）

オーストラリアの米国追従を非難

最近、わが共和国に対する米国の狂乱的な政治的・軍事的挑発策動で一触即発の緊迫した情勢が生じている中、オーストラリアが米国に積極的に追従する危険な動向を見せている。

オーストラリア外相が直接口を出して、われわれに対する武力の使用を含む全ての選択案を検討しているという米国の立場に支持を表明する一方、去る11日に南朝鮮を訪問した外相と国防相が板門店にまで現れてわれわれを非難する茶番を演じた。

一方、オーストラリアのダーウィンに駐屯している米軍とオーストラリア軍が去る4月からわれわれを狙った上陸作戦訓練を行っているという。

このような中、オーストラリアの攻撃型潜水艦が米日の潜水艦との合同演習のために作戦水域に展開し、数週間後にはわれわれに対する海上封鎖に利用されるフリゲート艦隊が南朝鮮水域に到着するなど、オーストラリア武力が朝鮮戦争を準備しているという報道が流れている。

オーストラリア政府の公人がわれわれに対する米国の軍事的選択を支持するような無責任な言動をむやみにしているのは、自国の利益を危うくしてまでトランプの利己的な「米国第一主義」に利用される愚かな行為である。

その上、オーストラリアの領土を米国の対朝鮮侵略の前哨基地にし、自らの武力を侵略戦争の「突撃隊」に駆り出すのは先の朝鮮戦争の悲惨な過去を繰り返す自殺行為である。

オーストラリアが再三の警告にもかかわらず、われわれに反対する米国の軍事的・経済的・外交的圧力策動に引き続き追従しては、災いを免れないであろう。

オーストラリアは、「同盟国」の侵略政策の実現に盲目的に追従するのではなく、定見を持って言行を熟考すべきであり、他国と友好関係を発展させるために努力するのが自国と自国民の安全を保障する最善の方途になることを悟るべきである。

●朝鮮通信社論評：米国の核実験再開企図は覇権的野望の表れ（10/18）

朝鮮中央通信社は18日、「人類の頭上に再び核の災難をもたらす真犯人」と題する全文次のような論評を発表した。

最近、米国が核戦力増強策動を露骨に行って核実験まで再開しようとしている。

国内の保守強硬派の間で、「安保環境が冷戦時代よりも複雑になった」という口実の下に核実験を再開し、古くなった核弾頭を任意に抽出して爆発させてみるべきであるとの世論が広まる中、政府当局者までが核実験を永遠に再開しないということについては「今後さらに議論することになる」とその可能性を公然と示唆している。

「ポリティコ」「ニューヨーク・タイムズ」をはじめ米国のメディアも、「トランプ政権が既存の核兵器の寿命延長と新たに開発される核弾頭の性能検証のために核実験を再開し得る」「米国の核実験再開が国際的な核軍備競争を触発し得る」と報道している。

米国の核実験再開の動きは、「世界が核について分別をわきまえるまで核能力を大幅に強化しなければならない」と騒ぎ立てるトランプの横暴な核対決ヒステリーの延長線で行われることによってさらに重大視されている。

トランプはホワイトハウスに入るなり、米国の核戦力が他国に比べて立ち遅れたと気炎を吐いて核戦力の状態を再検討、評価することに関する任務を国防総省に下したし、その近代化に巨額を投じている。

去る7月に行われた安保分野の会議で、トランプが米国の核兵器を10倍に増やせと妄言を吐いて参加者を驚愕（きょうがく）させたという最近のNBCの報道は、執権者の核ヒステリーがどの域に至ったのかを如実に実証している。

このような病的狂態に唆されて米国の核実験再開企図は既に現実になってきている。

1カ月前、ネバダ州で行われた戦術核爆弾B61-12の実験はその序幕にすぎない。

これまで実に1000余回の核実験を行い、先端級核兵器を最も多く保有している米国がそれでも足りずに再び核実験を再開しようとするのは、絶対的な核の優位で世界を支配しようとする凶悪な覇権的野望の表れである。

世界の全ての国が自分らの核のこん棒にひれ伏して奴隷として生きるか、もしくは死ぬべきであるというのが、米国の強盗の論理である。

米国の核実験再開策動は必然的に列強間の核軍備競争につながり、国際的な核拡散防止体系を破壊して地球上に核戦争の危険性をさらに増大させるであろう。

さらに、米国が歴史上初めて、そして唯一人類の頭上に核の惨禍を浴びせた悪の帝国であるという事実は、国際社会に再犯の企図が濃厚な核犯罪国家を大きな懸念の中で注視するようになっている。

世界の平和と安全を脅かす張本人である米国が、こんにちもわれわれに対する核先制攻撃の機会ばかりを虎視眈々（たんたん）とうかがっている状況で、朝鮮が核兵器を放棄するというのは話にならない。

わが共和国は、米国とその追従勢力の核の威嚇・恐喝政策が続く限り、核戦力を中枢とする自衛的国防力と先制攻撃能力をさらに強化していくであろうし、それは地球上から核兵器がきれいに一掃される時まで続くであろう。

●朝鮮制裁調査委員会スポークスマン談話（10/20）

制裁が国連機関の協力事業を妨害

米国とその追従勢力の制裁・圧殺策動は今、わが国家と人民の生存権、発展権を抹殺して現代文明を破壊し、世界を中世的な暗黒世界に逆戻りさせようとする極めて残忍で野蛮な域に至っている。

制裁策動が国連機関の人道協力事業に否定的な影響を与えないと明記した国連安全保障理事会「決議」の内容まで覆し、透明性を持って行われる協力事業にまで制裁の魔手が伸びているのがこんにちの現実である。

世界の全ての地域と国で行われている国連機関の協力事業は、世界の平和と安全を保障し、国際関係を発展させ、経済、社会、文化など各分野での国際的協力を図ろうとする国連の崇高な目的の遂行に資する事業である。

しかし、米国とその追従勢力はわが共和国の正常な経済貿易活動を全面的に遮断し、初歩的な生存権まで抹殺しようとする前代未聞の制裁・圧殺策動を行ったばかりか、わが国で行われている国連機関の協力事業にまで言い掛かりをつけてその履行を各方面から妨害している。

他国とは異なり、わが国で国連開発計画（UNDP）、国連児童基金（ユニセフ）、国連人口基金（UNFPA）など全ての国連機関の協力事業は、国連安保理対朝鮮制裁委員会の厳格な統制の下で行われている。

結果的に今、国連機関の協力資金の送金ルートが遮断され、物資の納入が遅延しており、さらには住民の一般生活用品まで二重用途のレッテルが貼られて制限されることで、子どもと女性の権利保護と生存に莫大（ばくだい）な支障を来し、われわれの民需経済分野はもちろん、人民の生活にまで害を及ぼしている。

内外の強い反発に勝てずに駐朝国連機関のための協力資金の送金を容認したとはいうが、実質的な措置を全く講じていないことによって送金が中断され、協力が進捗（しんちよく）していない。

今年、ユニセフとUNFPAなどが子どもと女性の健康保護・増進のために購入、提供する結核診断用の移動式エックス線設備と試薬、ハマダラカ殺虫剤、分娩（ぶんべん）用の医療機器の納入がさまざまな不当な口実の下に販売地と経由地で数カ月ずつ遅延したし、多剤耐性結核患者の診断に必要な試薬は2017年から全く納入されていない。

これは、世界人権宣言に規定された衣食住、医療援助、必要な社会的サービスを含めて健康と福利を維持する上で十分な水準の生活を享受する権利を否定、侵害する明白な人権じゅうりん行為である。

これにより、制裁の目的が米国とその追従勢力が主張する「武器の開発を防ぐところにある」のではなく、われわれを孤立、窒息させ、人道の災難を意図的にもたらしてわが体制を転覆させるところにあることが明白にあらわになっている。

米国とその追従勢力がわれわれに史上最大の制裁、圧力を加えるほど、われわれは自主の旗印、並進の旗印、自力更生の旗印をさらに高く掲げて敵の無謀な核戦争挑発策動と卑劣な制裁・圧殺策動を断固粉碎し、制裁で受けた被害を最後まで計算するであろう。

●朝鮮アジア太平洋委員会スポークスマン談話（10/22）

再侵略準備進める日本に強硬な自衛的措置も

日本当局が米国の間抜けな反朝鮮圧殺に相づちを打って自分が死ぬのも知らずわれを忘れて騒いでいる。

周知のように、最近、日本の反動層は自分らの汚らわしい執権余命を何としても永らえる浅知恵の下で何の大義名分もなしに衆議院を解散し、それがいわゆる「国難突破」のための「壮挙」になるかのように騒ぎ立てている。

見ものは、日本当局が自分らの劣悪な政権運営能力によって招かれた国難があたかも「北朝鮮の核の脅威」から生じたかのように世論を誘導し、「危機打開の中心点」は自分らしか居ないと無分別に振る舞っていることである。

老いぼれのトランプのヒステリーをあおり立てたばかりか、初歩的な理性まで失って自分らの国会解散措置をわれわれと無理やり結び付けている日本の反動層の腹黒い下心は火を見るよりも明らかである。

それは、米国がもたらす核戦争の暗雲の煙幕の中で再執権の野望を満たし、ひいては朝鮮半島再侵略の布石を打って「大東亜共栄圏」の昔の夢を実現しようとする日本式のずる賢さと狡猾（こうかつ）さの集中的な表れである。

日本がわが共和国に対する米国の軍事的攻撃ラッパを口角泡を飛ばしてやかましく吹き、朝鮮半島有事の米軍に対する兵たん支援と「自衛隊」を動員したいいわゆる「武装難民」鎮圧計画なるものまで検討した事実がこれをはっきりと立証している。

諸般の事実は、米国の戦争ヒステリーに便乗して反朝鮮敵視感情を鼓吹し、漁夫の利を得ようとする島国の連中の血気がどれほど陰悪な域に至ったのかをそのまま示している。

日本は稚拙極まりない政治詐欺劇を再度演出したことで、敗北後の数十年間、世界を欺瞞（ぎまん）、愚弄（ぐろう）し、軍国化に拍車を掛けてきた自分らの醜悪な本性と戦争国家としての暴悪な姿を赤裸々にさらけ出した。

さらに重大なのは、日本の反動層がわが共和国の海外同胞団体である在日本朝鮮人総聯合会（朝鮮総聯）を目の上のこぶと見なし、この機会に完全になくそうと「現行法の過剰適用」までうんぬんして全面弾圧の口実を得るために血眼になって暴れ回っていることである。

朝鮮総聯が結成された初日から「破壊活動防止法」に基づく調査対象団体に指定し、その活動をしつこく監視、規制し、弾圧してきた日本当局は最近、わが共和国に先立ち、朝鮮総聯からなくす凶悪な企図の下に在日同胞の民族教育をはじめ全ての民族的権利を踏みにじるために手段と方法を選ばず血眼になって狂奔している。

これによって今、島国全域には先の朝鮮戦争前夜に米国の指令に従って「後方の安全」を騒ぎ、在日朝鮮人団体を強制的に解散させて弾圧した時をほうふつさせる殺伐とした雰囲気まん延している。

これは明白に、朝鮮半島の有事に在日朝鮮人を全面的に弾圧するための前奏曲であり、わが共和国に対する露骨な挑戦行為、敵対行為にほかならない。

忍耐にも限界があるものであり、そばに災いの種があるなら一刻も早く取り除くのが唯一の上策である。

日本は去る20世紀前半期、40余年間にわたって朝鮮半島を軍事的に占領、強奪し、わが人民に永遠に全てを償えない多大な不幸と苦痛を強いた朝鮮民族の千年来の敵である。

日本は、米国が起こした先の朝鮮戦争時も列島を丸ごと米軍の出動基地、兵たん基地に委ねることで、罪のない朝鮮人の大量虐殺に加担した罪悪に満ちた歴史を持っている。

こんにちも、有事に朝鮮戦争に投入される米帝侵略軍の基本武力を駐屯させて合同軍事演習に参加していること自体が、わが民族に対する耐え難い挑戦であり、永遠に許し難い特大の犯罪行為となる。

朝鮮人民に犯した万古無比の大罪を誠実に反省して賠償する代わりに、米国にこびへつらって軽々しく振る舞う日本の反動層の行動は、国家核戦力完成の終着点に至っているわが共和国の限りなく強大な威力に仰天した者の断末魔のあがきにすぎない。

日本当局が狂人帝国を救世主のように信じて再び黄金の雨を降らせるつまらない夢を見るのは、猿猴（えんこう）が月を取る荒唐無稽な妄想である。

日本列島を飛び越えたわれわれの中長距離弾道ミサイルが何を意味するのかいまだにろくに理解できないまま、わが革命武力の照準器内に憎らしい体をさらに大きくさらけ出しているまさにここに、政治小物として世界の人々の嘲笑を買っている島国の悲劇がある。

日本が米国を後ろ盾にして再侵略の準備に最後の拍車を掛けていることが明白になった以上、われわれもやむを得ず相応の強硬な自衛的措置を行使する権利がある。

世紀と世代をまたいで島国のならず者に積もり積もった恨みをすっきりと晴らす歴史のその日が一日でも早く近づくほど、われわれにはこれよりも幸いなことはない。

もし、島国に敵撃滅の砲火が降り注ぎ、想像もできない破局的災難が招かれる場合、日本は米国の反朝鮮圧殺策動の突撃隊として乗り出してアジア太平洋地域の平和を破壊してきた犯罪の代価がどんなに残酷であるのかを痛切に感じることになるであろう。

日本の反動層は、チュチェの核強国、世界的な強国に毅然（きぜん）とそびえ立ったわが共和国の戦略的地位をしっかりと知ってむやみに狂奔してはならない。

●朝鮮国家体育指導委員会スポークスマン談話（10/26）

米国のスポーツ部門制裁を非難

今、米国が主導するわが共和国に対する狂乱的な制裁・圧力騒動は、スポーツ部門にまで深く触手を伸ばしている。

米国は、制裁項目に各種の運動用具を含め、その販売だけでなく国際スポーツ機関がわれわれに寄贈する運動用具の当該国の経由も遮断するようにしている。

米国の卑劣でしつこい圧力によって一部の国がわれわれと合意して平壤で行うことになっていた通常の国際試合が1年が過ぎても延期されており、国際スポーツ機関がわが国での開催を既に決定していた柔道の2017年世界ジュニア選手権大会と重量挙げの2018年世界ジュニア選手権大会が取り消された。

特に、オーストラリアは2018年アジアサッカー連盟（AFC）U-19（19歳以下）選手権予選参加のためのわれわれの選手の入国を拒否した。

各国の人民間の友好と文明の発展を図るスポーツ活動は、不純な政治目的のいけにえになり得ない。

しかし、米国が追従勢力を駆り出して行っているわれわれのスポーツ部門に対する極悪な制裁は現代文明を破壊する行為であるだけでなく、われわれの思想と制度を崩し、わが人民の文化的な生活の享受まで完全に阻もうとするとところに目的があることを示している。

最近、トランプが国連総会でわが国家の「完全破壊」のような妄言を吐いたのがそれを立証している。

米国が主権国家の体制転覆を狙って神聖なスポーツまで政治的に悪用しているが、国際スポーツ機関は人類の平和と発展を図り、人間の体力発達と現代文明を促すスポーツの理念を固守すべきであろう。

われわれは既に宣明した通り、われわれの自主権と生存権、発展権を抹殺する目的の下に行われているあらゆる形態の反人倫的で野蛮な制裁行為を徹底的に計算し、必ずその代価を受け取るであろう。